

第 2 0 4 回 役 員 会 議 事 次 第

I 日 時 令和5年5月24日（水）教育研究評議会終了後

II 場 所 オンライン会議

III 議 事

1 前回議事録の確認について

2 審議事項

(1) 産業技術学部編入学の変更等に伴う学則の一部改正について

【谷副学長】資料1

(2) その他

3 報告事項

(1) 新機構及び新学部の設置について

【石原学長・谷副学長・香田副学長】資料2

(2) 令和4年度卒業時・修了時アンケートについて

【香田 IR 室長】資料3

(3) その他

IV 配付資料

資料1-1 産業技術学部編入学の変更等に伴う学則の一部改正について（概要）

資料1-2 筑波技術大学学則 新旧対照表（案）

資料2-1 共生社会創成学部の概要

資料2-2 カリキュラム案

資料2-3 令和6年度教育研究組織改革分（組織整備）の概要

資料2-4 令和6年度 教育研究組織改革分（組織整備）積算内訳

資料3-1 令和4年度卒業時・修了時アンケートの概要（一次報告）

資料3-2 国立大学法人筑波技術大学 令和4年度卒業時アンケート報告書

資料3-3 国立大学法人筑波技術大学 令和4年度修了時アンケート報告書

次回予定 令和5年6月21日（水）教育研究評議会終了後～

第203回国立大学法人筑波技術大学役員会議事録（案）

I 日 時 令和5年4月26日（水）16:00～16:45

II 場 所 オンライン(Zoom)会議

III 出席者等

- ・出席者 石原学長（議長）、酒井（貢）理事、四日市理事、長島理事
- ・陪席者 谷副学長、香田副学長、大島監事
- ・事務局 井手大学戦略課長（兼）総務課長、元井聴覚障害系支援課長、大滝視覚障害系支援課長、三村財務課長心得 他9名

IV 議 事

1 前回議事録の確認について

前回議事録（第201回及び第202回）は、原案のとおり確認された。

2 審議事項

（1）新学部設置準備室規程の制定について

井手大学戦略課長から、資料1-1～2により、新学部「共生社会創成学部（仮称）」の設置を機動的に進めることを目的とした、準備室の設置ならびに規程の制定についてそれぞれ説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3 報告事項

（1）新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について

（2）新機構及び新学部の設置について

（3）第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

（4）令和4年度国家試験合格状況について

（5）令和5年度役付教職員、各室員、委員会委員について

（6）その他

報告事項（1）については、資料2により、令和5年5月8日以降の新型コロナウイルス感染症に関する本学の対応について、報告事項（2）については、資料3により、新機構及び新学部の設置に係る文部科学省との事前相談の状況について、それぞれ説明があった。報告事項（3）～（5）については、資料4～6により、それぞれ報告があった。

報告事項（6）その他において、大島監事から、国立大学法人等監事協議会による附属病院監査研究会の報告があった。また、新学部構想やカリキュラムについてそれぞれ意見交換がなされた。

以 上

産業技術学部編入学の変更等に伴う学則の一部改正について

1. 改正の目的

産業技術学部においては、3年次編入学(9月実施)を導入した後、受験者の出願資格を緩和する等の対策を行ってきたが、これまで出願者はいない状況であった。そこで令和6年度編入学(令和5年度実施)から年2回実施すると共に、他大学に進学した聴覚障害学生が早期に本学への進路変更をすることができるよう、他大学の1年次生を出願対象に含めた2年次編入学を導入するため、学則第16条(1)を別紙のとおり改正する。また、学校教育法が改正されたことを受け、大学院技術科学研究科各専攻における入学資格にかかる学則第48条の一部を併せて改正する。

2. 産業技術学部編入学の変更にかかるこれまでの審議の流れ

上記のとおり産業技術学部編入学を変更することにつき、令和5年度第1回産業技術学部入学試験実施委員会(R5.5.11開催)、令和5年度第1回産業技術学部教授会(R5.5.17開催)及び令和5年度第1回入学試験委員会(R5.5.18開催)において令和6年度入学試験実施要項(産業技術学部)等を審議し、承認された。2年次編入学の導入にかかる事項については、学則の変更が承認された場合に有効となる。

3. 改正の内容

学則第16条(1)において、「産業技術学部2年次編入学においては、大学に1年以上在学し、31単位以上修得し退学した者」を追記する。また学則第48条(2)、2-(2)、3-(2)につき、「学校教育法第104条第4項」を「学校教育法第104条第7項」に改正する。

4. 産業技術学部編入学の変更にかかる今後のスケジュール

学則の改正につき承認された場合、編入学にかかる学生募集要項を修正し、7月に産業技術学部入学試験実施委員会、産業技術学部教授会及び入学試験委員会において審議したうえ、教育研究評議会等へ報告する予定である。

筑波技術大学学則 新旧対照表(案)

新	旧
<p>(略)</p> <p>(編入学, 転入学及び再入学)</p> <p>第16条 第12条に規定する本学への入学資格に該当する聴覚又は視覚に障害がある者で, 次の各号のいずれかに該当するものが編入学を志願したときは, 選考の上, 相当年次に入学を許可することができる。</p> <p>(1)大学を卒業した者又は大学に2年以上在学し, 62単位以上修得し, 退学した者。<u>産業技術学部2年次編入学においては, 大学に1年以上在学し, 31単位以上修得し, 退学した者。</u></p>	<p>(略)</p> <p>(編入学, 転入学及び再入学)</p> <p>第16条 第12条に規定する本学への入学資格に該当する聴覚又は視覚に障害がある者で, 次の各号のいずれかに該当するものが編入学を志願したときは, 選考の上, 相当年次に入学を許可することができる。</p> <p>(1)大学を卒業した者又は大学に2年以上在学し, 62単位以上修得し, 退学した者</p>
<p>(略)</p> <p>(入学の資格)</p> <p>第48条 産業技術学専攻に入学することができる者は, 次の各号のいずれかに該当する聴覚に障害がある者で, 両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもの又は補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能若しくは著しく困難な程度のものとする。</p>	<p>(略)</p> <p>(入学の資格)</p> <p>第48条 産業技術学専攻に入学することができる者は, 次の各号のいずれかに該当する聴覚に障害がある者で, 両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもの又は補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能若しくは著しく困難な程度のものとする。</p>
<p>(2)学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p> <p>2 保健科学専攻に入学することができる者は, 次の各号のいずれかに該当する視覚に障害がある者で, 両眼の矯正視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち, 拡大鏡等の使用によっても通常の文字, 図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの</p>	<p>(2)学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p> <p>2 保健科学専攻に入学することができる者は, 次の各号のいずれかに該当する視覚に障害がある者で, 両眼の矯正視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち, 拡大鏡等の使用によっても通常の文字, 図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの</p>

<p>若しくは将来点字等の特別の方法による教育を必要とすることとなると認められるものとする。</p> <p>(略)</p> <p>(2)学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p> <p>3 情報アクセシビリティ専攻に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(略)</p> <p>(2)学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p> <p><u>この学則は、令和5年 月 日から施行する。</u></p>	<p>若しくは将来点字等の特別の方法による教育を必要とすることとなると認められるものとする。</p> <p>(略)</p> <p>(2)学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p> <p>3 情報アクセシビリティ専攻に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(略)</p> <p>(2)学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p>(略)</p>
---	---

基本概要

- ◆名 称 共生社会創成学部
- ◆開設予定時期 令和7年4月
- ◆学 位 「学術」(社会学・工学分野)
- ◆入 学 定 員 15名(聴覚5名、視覚10名)
- ◆基 幹 教 員 12名以上(うち6名は教授)

教育方針

本学部では、理論と実践の両面から情報技術を基盤としたアクセシビリティ技術及び共生社会を創成するために必要な仕組みを学ぶ。

また、これらと並行して、本学部の特色であるプロジェクト実習を通じて課題解決能力・発信力を養う。

これにより、障害者の視点から、多様な人々が積極的に社会参加し貢献していくことができる共生社会の創成に必要な能力を身に付ける。

育成する人材像

本学部では、障害社会学及び情報科学を組み合わせ、多様な人々が能力を発揮できる共生社会の創成を目指す人材を育成する。

卒業後の進路

- 民間企業 ➡ 人事部(障害者、ダイバーシティ関連部署)、総務部(CSR関連部署)、企画部(経営戦略部署)、開発部(福祉機器、システム開発部署)
- 地方公共団体 ➡ 障害者・高齢者福祉関連部署、ダイバーシティ環境推進部署(首長直轄部署)
- 社会福祉協議会等
- 国の機関(省庁、直轄施設、等) ➡ 厚生労働省、総務省、デジタル庁等の障害者対策部署
- 社会支援団体等職員(障害者福祉団体、障害者団体、等)
- 進学(本学 情報アクセシビリティ専攻・産業技術学専攻・保健科学専攻/他大学 大学院)

カリキュラム案

共生社会創成学部 共生社会創成学科(視覚障害)

教養教育系科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員			
教養教育系科目	総合科目		修学基礎	講義	2	必修	1	必修科目 2単位				
			哲学	講義	2	選択	1					
			心理学	講義	2	選択	1					
			情報と社会環境	講義	2	選択	1					
			法律学	講義	2	選択	1					
			日本国憲法	講義	2	選択	1					
	言語教育科目	外国語		英語A	演習	2	必修	1	必修科目 10単位			
				英語B	演習	2	必修	1				
				英語C	演習	2	選択	2				
				英語D	演習	2	選択	2				
		音言語		オーラルコミュニケーション1(A)	演習	1	必修	1		選択科目 3単位以上		
				オーラルコミュニケーション2(B)	演習	1	必修	1				
				オーラルコミュニケーション3(C)	演習	1	選択	2				
				オーラルコミュニケーション4(D)	演習	1	選択	2				
				日本語		日本語表現法A	演習	2			必修	1
						日本語表現法B	演習	2			必修	1
	健康・スポーツ		健康・スポーツA	講義・実習	1	必修	1	必修科目 3単位				
			健康・スポーツB	講義・実習	1	必修	1					
			健康・スポーツC	講義・実習	1	必修	2					
			健康・スポーツD	講義・実習	1	選択	2					
シーズンスポーツA			講義・実習	1	選択	3・4						
シーズンスポーツB			講義・実習	1	選択	3・4						
卒業に必要な修得単位数(教養教育系科目)								25単位				

共生社会創成学部 共生社会創成学科(聴覚障害)

教養教育系科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員		
教養教育系科目	総合科目		修学基礎	講義	2	必修	1	必修科目 2単位			
			哲学	講義	2	選択	1				
			心理学	講義	2	選択	1				
			情報と社会環境	講義	2	選択	1				
			法律学	講義	2	選択	1				
			日本国憲法	講義	2	選択	1				
	言語教育科目	外国語		英語A	講義	2	必修	1	必修科目 10単位		
				英語B	講義	2	必修	1			
				英語C	講義	2	必修	2			
				英語D	講義	2	選択	2			
		手話言語		手話コミュニケーション入門	講義	2	選択必修	1		選択必修科目 2単位	
				日本手話言語基礎	講義	2	選択必修	1			
				手話コミュニケーション演習	演習	1	選択	1			
				アメリカ手話言語1	講義	2	選択	1			
				アメリカ手話言語2	講義	2	選択	1			
				日本語		日本語表現法A	講義	2			必修
	日本語表現法B	講義	2			必修	1				
	健康・スポーツ		健康・スポーツA	講義・実技	1	必修	1	必修科目 3単位			
			健康・スポーツB	講義・実技	1	必修	1				
			健康・スポーツC	講義・実技	1	必修	2				
健康・スポーツD			講義・実技	1	選択	2					
シーズンスポーツA			講義・実技	1	選択	3・4					
シーズンスポーツB			講義・実技	1	選択	3・4					
卒業に必要な修得単位数(教養教育系科目)								27単位			

データサイエンス科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員
データサイエンス	基礎科目		情報基礎・演習1	講義	3	必修	1	必修科目 8単位	
			情報基礎・演習2	演習	3	必修	1		
			数学基礎	講義	2	必修	1		
			数学基礎演習	演習	1	選択	1		
			データサイエンス	講義	2	選択	1		
			社会調査論	講義	2	選択	2		
			統計確率	講義	2	選択	2		
卒業に必要な修得単位数(データサイエンス科目)								11単位	

データサイエンス科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員
データサイエンス	基礎科目		情報リテラシー	講義	2	必修	1	必修科目 6単位	
			コンピュータシステム概論	講義	2	必修	1		
			数学基礎	講義	2	必修	1		
			数学基礎演習	演習	1	選択	1		
			データサイエンス	講義	2	選択	1		
			社会調査論	講義	2	選択	2		
			統計確率	講義	2	選択	2		
卒業に必要な修得単位数(データサイエンス科目)								9単位	

専門教育系科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員
専門教育系科目	障害社会学系科目		社会学	講義	2	必修	1	必修科目 30単位	
			社会福祉学	講義	2	必修	1		
			共生社会論	講義	2	必修	1		要求教員(1)
			障害の特性と理解	講義	2	必修	1		
			ダイバーシティの理解	講義	2	必修	2		
			法制度の仕組みと福祉	講義	2	必修	2		要求教員(1)
			障害者教育の実態(特別支援教育)	講義	2	必修	2		
			情報社会と情報倫理	講義	2	選択	2		
			教育とダイバーシティ	講義	2	必修	2		要求教員(1)
			障害者の就労と社会	講義	2	必修	2		
			異文化コミュニケーション	演習	2	選択	2~4		
			共生社会演習1	講義	2	必修	3		要求教員(2)
			共生社会演習2	講義	2	必修	3		要求教員(2)
			障害者生活環境論	講義	2	選択	3		
			共生社会と支援(支援技術学演習B)	講義	2	選択	3		
			福祉用具とICT	演習	2	選択	3		要求教員(1)
			障害者スポーツ	演習	2	選択	3		
			国際障害者論	演習	2	選択	3		
			Practical English	講義	2	選択	3		
			インターンシップ特別実習A	実習	2	選択	3		
	インターンシップ特別実習B	実習	2	選択	4				
	情報科学系科目		視覚障害学概論	講義	2	必修	1	必修科目 15単位	
			視覚障害者社会参加論	講義	2	必修	1		
			点字の理論と実際	講義	2	必修	1		
			障害補償演習1	演習	1	選択	1		
			障害補償演習2	演習	1	選択	1		
			視覚障害者リハビリテーション論	講義	2	選択	2		
			プレゼンテーション演習	演習	2	必修	2		
			環境マネジメント(視覚障害)	講義	2	選択	3		
			手話と聴覚障害支援技術	演習	2	選択	3		
プログラミング基礎			講義	2	必修	1	要求教員(3)		
情報科学概論	講義	2	必修	2					
データベース基礎	講義	2	必修	2					
ウェブテクノロジーとセキュリティ	講義	2	必修	2					
ウェブデザイン	講義	2	必修	2					
人工知能基礎	講義	2	必修	2					
アルゴリズムとデータ構造	講義	2	選択	2	要求教員(3)				
データ解析法	講義	2	選択	3					
プログラミング応用	講義	2	選択	3					
ヒューマンインタフェース	講義	2	選択	3					
移動支援工学演習	演習	1	選択	1	要求教員(3)				
情報アクセシビリティ(視覚障害)	講義	2	必修	1					
情報アクセシビリティ演習(視覚障害)	演習	1	必修	1					
障害者サポート技法	講義	2	選択	3					
オペレーションズリサーチ	講義	2	選択	3					
音声ユーザインタフェース	講義	2	選択	3・4					
IoT工学	講義	2	選択	3・4					
共生社会創成系科目		共生社会創成プロジェクト実習A	演習	2	選択	2	必修科目 12単位	要求教員(2)	
		共生社会創成プロジェクト実習B	演習	3	必修	3		要求教員(2)他	
		共生社会創成プロジェクト実習C	演習	3	必修	3		要求教員(2)他	
		共生社会創成特別研究1	演習	3	必修	4			
		共生社会創成特別研究2	演習	3	必修	4			
各区分の最低取得単位の他に、障害社会学系科目、情報科学系科目、共生社会創成プロジェクト系科目及び産業技術学部情報システム学科の指定科目から8単位以上選択								8単位以上	

専門教育系科目

区分		授業科目	科目名	授業方法	単位数	必修選択の別	履修年次	卒業所要単位数	担当教員
専門教育系科目	障害社会学系科目		社会学	講義	2	必修	1	必修科目 30単位	
			社会福祉学	講義	2	必修	1		
			共生社会論	講義	2	必修	1		要求教員(1)
			障害の特性と理解	講義	2	必修	1		
			ダイバーシティの理解	講義	2	必修	2		
			法制度の仕組みと福祉	講義	2	必修	2		要求教員(1)
			障害者教育の実態(特別支援教育)	講義	2	必修	2		
			情報社会と情報倫理	講義	2	選択	2		
			教育とダイバーシティ	講義	2	必修	2		要求教員(1)
			障害者の就労と社会	講義	2	必修	2		
			異文化コミュニケーション	演習	2	選択	2~4		
			共生社会演習1	講義	2	必修	3		要求教員(2)
			共生社会演習2	講義	2	必修	3		要求教員(2)
			障害者生活環境論	講義	2	選択	3		
			共生社会と支援(支援技術学演習B)	講義	2	選択	3		
			福祉用具とICT	演習	2	選択	3		要求教員(1)
			障害者スポーツ	演習	2	選択	3		
			国際障害者論	演習	2	選択	3		
			Practical English	講義	2	選択	3		
			インターンシップ特別実習A	実習	2	選択	3		
	インターンシップ特別実習B	実習	2	選択	4				
	情報科学系科目		情報保障概論(聴覚障害)	講義	2	必修	1	必修科目 17単位	
			聴覚科学	講義	2	必修	2		
			ろう・難聴者の社会参加	講義	2	選択	2		
			日本語社会とコミュニケーション	講義	2	選択	2		
			情報保障技術と活用	講義	2	必修	3		
			セルフアドボカシー(スキル)演習	演習	2	必修	3		
			就職活動支援	講義	2	選択	3		
			点字と視覚障害支援技術	演習	2	選択	3		
			ライフキャリア	演習	2	選択	4		
プログラミング基礎			演習	2	必修	1			
情報科学概論	講義	2	必修	2					
データベース基礎	講義	2	必修	2					
ウェブテクノロジーとセキュリティ	講義	2	必修	2					
ウェブデザイン	講義	2	必修	2					
人工知能基礎	講義	2	必修	2					
アルゴリズムとデータ構造	講義	2	選択	2					
データ解析法	講義	2	選択	3					
プログラミング応用	講義	2	選択	3					
ヒューマンインタフェース	講義	2	選択	3					
支援技術学論・演習	演習	2	必修	3					
情報保障技術学(聴覚障害)	講義	2	必修	3					
情報保障技術学演習(聴覚障害)	演習	1	必修	3					
情報保障システム工学(聴覚障害)	講義	2	必修	3					
情報保障システム工学演習(聴覚障害)	演習	1	選択	3					
グラフィックユーザインタフェース	講義	2	選択	4					
人間情報工学	講義	2	選択	4					
共生社会創成系科目		共生社会創成プロジェクト実習A	演習	2	選択	2	必修科目 12単位	要求教員(2)	
		共生社会創成プロジェクト実習B	演習	3	必修	3		要求教員(2)他	
		共生社会創成プロジェクト実習C	演習	3	必修	3		要求教員(2)他	
		共生社会創成特別研究1	演習	3	必修	4			
		共生社会創成特別研究2	演習	3	必修	4			
各区分の最低取得単位の他に、障害社会学系科目、情報科学系科目、共生社会創成プロジェクト系科目及び産業技術学部産業情報学支援技術学コース並びに産業技術学部総合デザイン学支援技術学コースの指定科目から8単位以上選択								8単位以上	

開講単位数 153単位

開講単位数 158単位

令和6年度要求教員数 【要求教員数】 3人

教育研究組織の概要

●法人内における位置づけや役割

障害者を含めた共生社会創成に向けた教育研究機能を強化するために、学長室、特命学長補佐、産業技術学部、保健科学部及び障害者高等教育研究支援センターに分散している機能を集約し、「共生社会創成機構」を新設する。このことは、第4期中期目標・中期計画において、「社会との共創」に独自目標を立て、幅広い層の障害者（とりわけ聴覚・視覚障害者）とその関係者を対象とした、横断的支援・縦断的支援を中核に据えた本学の方針に合致し、法人の基本的な目標として、社会に貢献する障害者人材を育成すると同時に、障害者とその能力を発揮し活躍する社会の発展に寄与することを掲げる本学にとって、本機構設置は重要な取組の一つとして位置付けている。

●教員体制

社会との共創事業の実施のため、外部資金と学長裁量ポスト・スペースとして、すでに5名の特任教員・研究員を配置している。この事業の運営は、学長室、特命学長補佐、障害者高等教育研究支援センターの教員が担当している。この組織体制（共生社会創成機構）を強化するために必要な分野の専門教員を新たに招聘（新規要求ポスト3名）する。

●他の組織との連携内容

本学と連携協力関係にある企業・団体・大学等と共創し、多様性に富んだ社会の形成・発展に向けて、ユニバーサルデザインの技術推進のための教育やその普及啓発活動を行うとともに、障害者の社会参画を促進するために情報コミュニケーション支援のための教育研究を行い、教育研究機能の活性化はもとより、学生の育成等も行う。

教育研究組織の教員の配置状況

教員の配置状況

※()は外国人数員数、[]は若手教員数、<>は全学的な研究マネジメントを担う者の数

教員数	うち、組織整備における措置人数	うち、学内からの振替人数	うち、学外からの新規採用
20人(0人) [5人]<0人>	3人(0人) [1人]<0人>	17人(0人) [4人]<0人>	3人(0人) [1人]<0人>

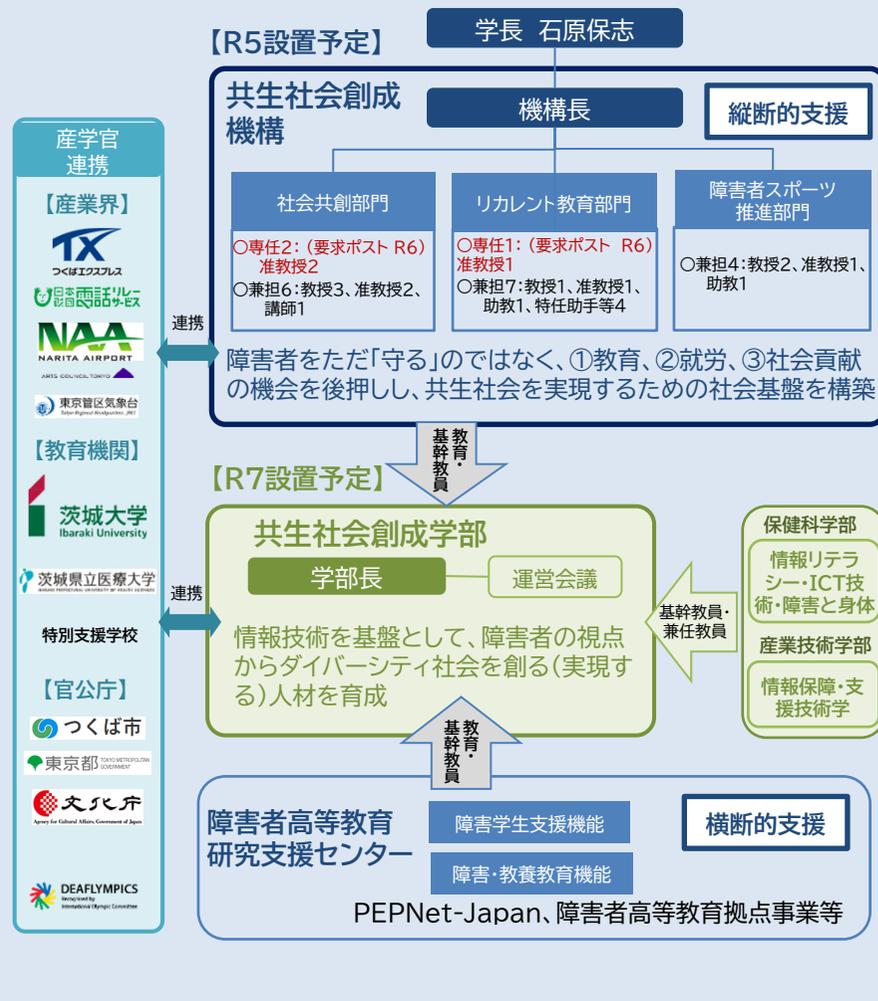
措置教員等の状況（役割等）

【教育研究組織の教員体制についての考え方】

徹底対話でも掲げた「技大生6.5万人計画」の実現に向けて、横断的支援・縦断的支援、特に縦断的支援の強化を図る。基軸となる事業は、共生社会の推進、リカレント教育、キャリア支援、産学連携であり、ダイバーシティ社会の実現に向けた取組を行う。将来的には、障害者自らがダイバーシティ社会環境醸成に寄与する人材を育成する学部（共生社会創成学部）の教育も担う。

【新規要求教員等の必要性・役割】

■社会共創部門	■リカレント教育部門	■必要性・役割
<ul style="list-style-type: none"> 情報アクセシビリティ・社会福祉学を専門とする教員 1名 サービスマーケティング（社会貢献・協働型学習）を専門とする教員 1名 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害に対する支援技術を専門とする教員 1名 	持続可能でかつ実質的に障害に対応できる産学官連携、リカレント教育に必要なマネジメント、コーディネーターに中心的な役割を担う。



組織整備を行う必然性・必要性

【必然性・必要性】

2021年3月の障害者の法定雇用率の引き上げ、2022年5月の障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法の公布・施行等により、障害者がより社会で活躍するためのハード面での環境整備は進んでいるものの、障害に対する理解不足等に起因する社会的障壁に直面する障害者は少なくなく、情報技術を基盤として、障害者の視点からダイバーシティ社会を創る人材の育成が喫緊の課題になっている。これらの産業界や地域のニーズを踏まえ、聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である本学は、「共生社会創成機構」を設置するとともに、新たに「共生社会創成学部」を設置し、人材育成機能を強化することで、我が国のダイバーシティ社会の創成をリードする高度人材の育成を図るものである。

【これまでの成果・実績】

- ・ 首都圏新都市鉄道株式会社との連携協定の締結及び連携事業として同社社員向けに本学学生が講師となったユニバーサルデザイン研修の実施
- ・ 一般財団法人日本財団電話リレーサービスとの連携協定の締結及び共同研究の実施
- ・ 文部科学省リカレント事業「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」及び「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の受託及び当該リカレント事業の延べ受講者が94名（部分受講者含む）
- ・ 障害者スポーツイベントの開催 令和4年度の参加者は延べ243名

学内の資源再配分の状況

【当該組織整備に係る資源再配分の状況】

本事業の実施に至るまで、本学では共生社会の実現を目指して、令和元年度から令和3年度まで学長裁量経費においてリカレント教育事業のために10,000千円を重点措置するとともに、1名の教員を新規に措置している。令和4年度（第4期）は社会との共創に関して、中核的な役割を果たす特命学長補佐を7名配置するとともに、学長直下の学長室において、社会との共創に係る取組を全学的にとりまとめ、推進している。令和5年度からは、社会共創機能をさらに強化するために、学長採用ポストとして1名の教員を新たに措置することとしている。

- ・ 社会共創部門 8（専任2（新規要求2）、兼担6）
- ・ リカレント教育部門 8（専任1（新規要求1）、兼担7）
- ・ 障害者スポーツ推進部門 4（兼担4）

【全学的な資源再配分の仕組み】

第4期中期目標期間において、学長が更なる大学の機能強化構想を実現していくため、中長期的な人事計画の策定及び学長裁量経費の見直しを行い、新しい組織整備の準備と社会との共創に関する研究の活性化を進めており、ISee Projectや博物館の手話ガイド育成支援プロジェクトが高い評価を得ている。また、若手研究者支援事業を開始し、資金配分された研究者が科学研究費助成事業の採択を受けるなどの成果をあげている。

組織整備により期待される成果・効果

（教育面）

共生社会創成機構（R5）、共生社会創成学部（R7）を中心として、共生社会の創成に向けて、現代社会、自身を含めた障害者、情報アクセシビリティに関する専門知識と課題解決力・発信力を有し、障害者の視点から、多様な人々が積極的に社会参加し貢献していく仕組みを構築することができる人材を輩出する。さらに、聴覚又は視覚に障害のある社会人の就労支援を継続・発展させ、スキルアップやキャリアアップに関する学びの場を提供するとともに、働きながら学位を取得できる体制を構築する。

（研究面）

共生社会創成機構を核として、本学が掲げる縦断的支援の取組をさらに推進し、首都圏新都市鉄道、日本財団電話リレーサービス、東京管区気象台などの社会インフラに関係する学外組織との連携を強化し、本学の教育フィールドで培われた知見を科学的に検証、発展させ、障害者を取り残さない社会変革のための具体的知見、技術を提供する。また、学外組織との連携事業を発展させ、ユニバーサルデザインやアクセシビリティに関する共同研究、産学官の連携による外部資金の獲得、これらの研究成果を社会に発信し、産業、医療の発展に寄与する。

成果に係るKPI

- ① **教育**：障害理解や高等教育に関する学修経験を年間300名以上の生徒に提供することにより、特別支援学校からの大学進学率を3%増加させる。（令和5年度比）
- ② **就労**：障害者の就労に関する説明会等を通じて、年間150社以上に障害理解に関する啓発活動を行うことで、ハローワークが公表する障害者の職業紹介件数を3%増加させる。（令和5年度比）
- ③ **社会貢献**：企業との連携や社会貢献事業（デフリンピック関連等）を年間15件以上実施し、これらのノウハウを活用して、障害者や取り巻く人々を対象とした、新しい教育・研修プログラムを開発する。

KPI設定の根拠・考え方

- ① **教育**：特別支援学校高等部（聴覚障害・視覚障害）の卒業生（令和4年度学校基本調査：聴覚442名、視覚232名）の約50%にあたる300名を目標として取り組むことで、大学進学率の向上を目指す。
- ② **就労**：第3期においては年間120社を目標に掲げていたが、本機構においてはその25%増加分にあたる150社を目標として取り組むことで、職業紹介件数の増加を目指す。
- ③ **社会貢献**：第3期は年間3件程度だった連携事業件数を5倍の15件に増加させることで、教育研究ノウハウを蓄積し、障害当事者だけでなく、取り巻く人々も対象とした新しい教育・研修プログラムの開発を目指す。

大学等番号：17 大学等名：筑波技術大学

令和6年度 教育研究組織改革分（組織整備）積算内訳

事業名：共生社会創成機構の設置による教育研究機能の強化

区分	金額	積算内訳	
	千円		千円
教員人件費	35,574	日本人教員（社会共創部門担当）	2人×@11,858千円（年俸制） 23,716
		日本人教員（リカレント教育部門部門担当）	1人×@11,858千円（年俸制） 11,858
事業推進費	38,000		
教員事業費	0		
運営事業費	16,000	情報アクセシビリティコーディネーター（リカレント教育部門）	1人×@8,000千円 8,000
		デフリンピックコーディネーター（障害者スポーツ部門）	1人×@8,000千円 8,000
環境整備費	4,000	基盤環境の整備	什器類、研究装置、光熱水料等 4,000
関連プロジェクト経費	18,000	【縦断的支援事業】	【主な経費】サポートスタッフ経費、外国旅費・国内旅費、会議費、謝金等、設備費 18,000
合 計	73,574		
うち運営費交付金所要額	○	内訳	
運営費交付金所要額のうち下線を付した積算（継続拡充分）の計	○	内訳	

積算内訳欄外の※印は学内負担分

令和4年度卒業時・修了時 アンケートの概要（一次報告）

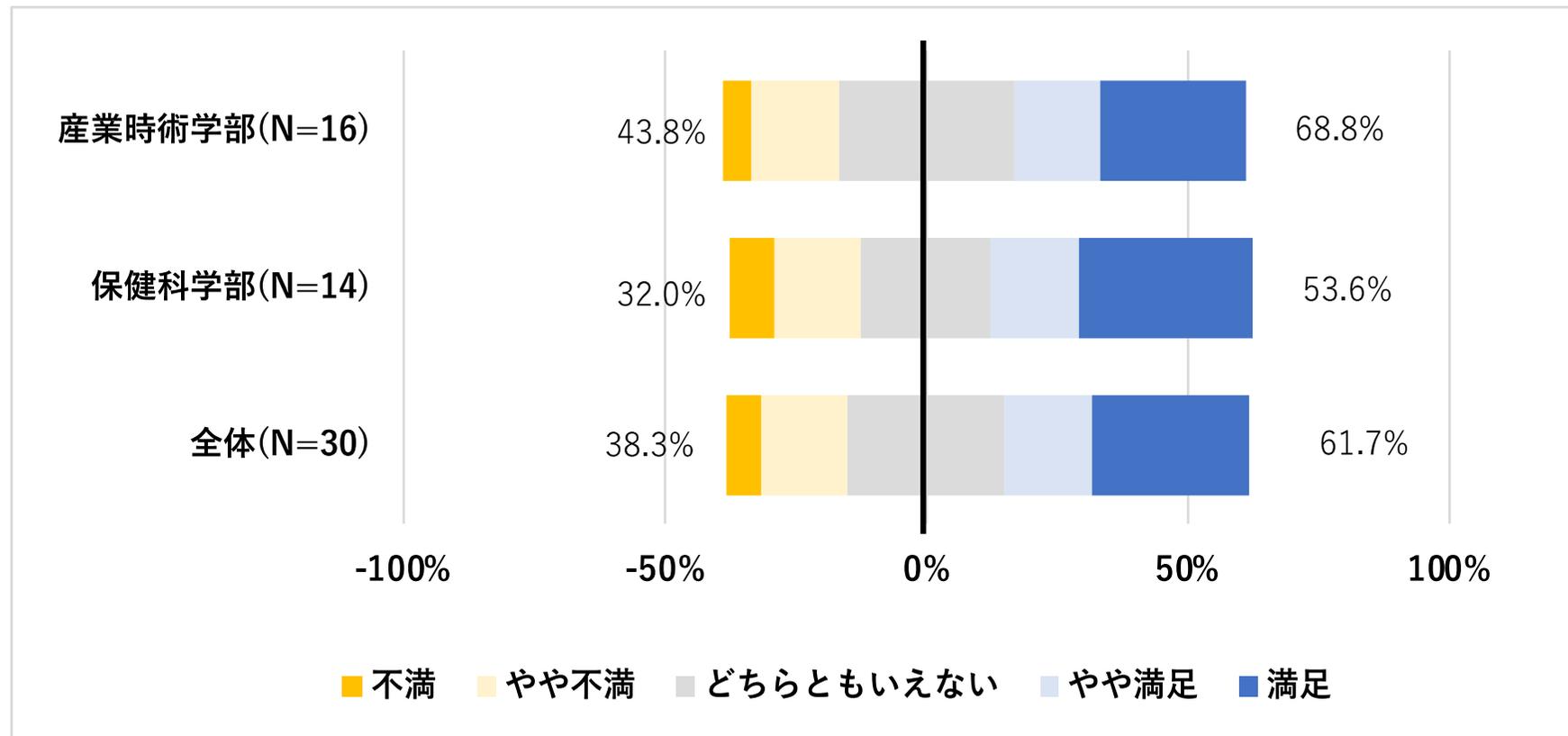
IR室

1. アンケートの概要

- **回答率** 学部42.3%、大学院42.9%
 - 学部の回答率が昨年度から10%減少
- **実施方法** Formsを活用したオンライン
- **昨年度からの変更点** 第4期中期目標で掲げた評価指標に対応するために、選択肢を4件法から5件法へ（「どちらともいえない」を追加）
- **今回の第一次報告ではクロス集計のみ実施**
 - 次ページからは否定的な回答を中心に紹介
- **今後、成績等の外部データと関連させた分析を実施予定**

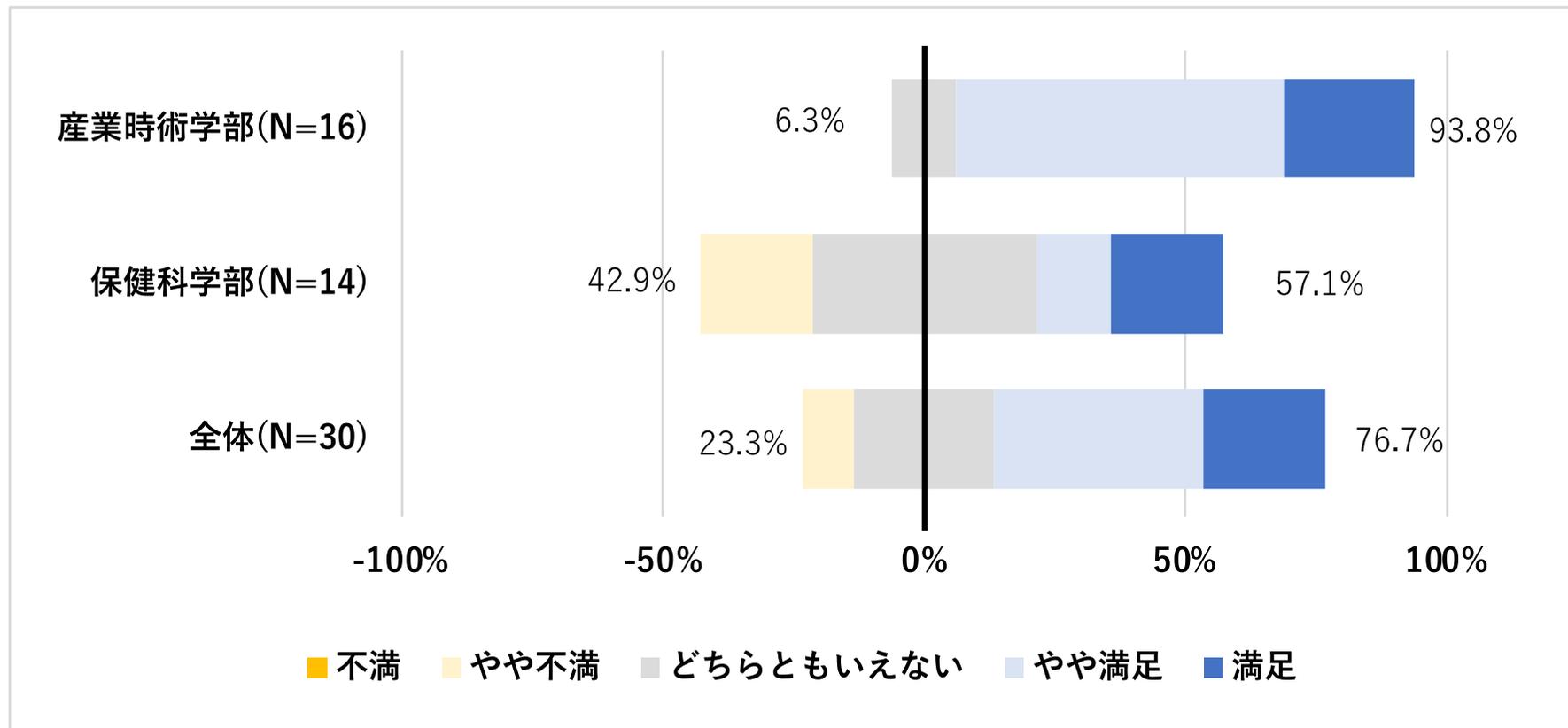
2. 体育館やグラウンド等の体育施設について

- 学修環境に関する他の設問と比較して、体育施設の不満は高い（感染対策の影響か）



3. 授業科目はシラバスの内容に沿って行われていたか

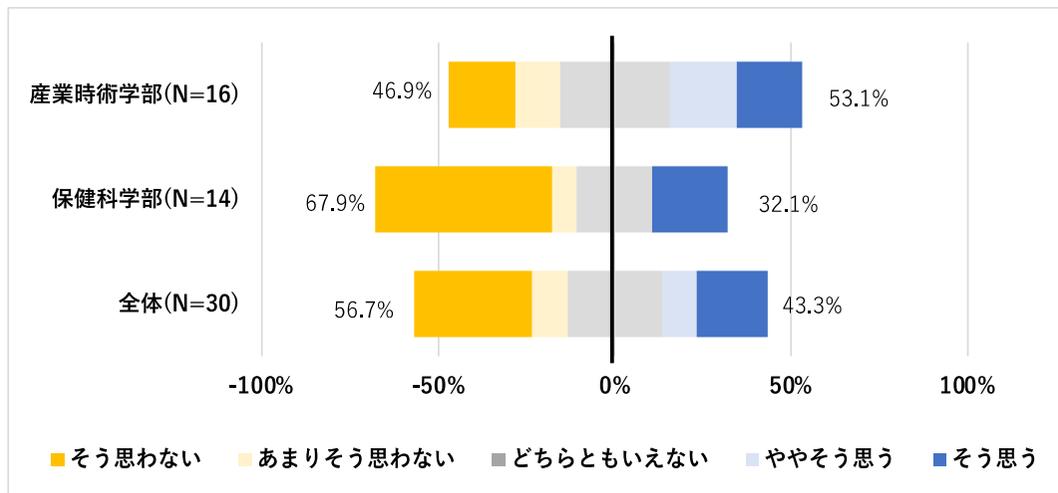
- 保健科学部の肯定的な回答が低い（「どちらでもない」が4割）



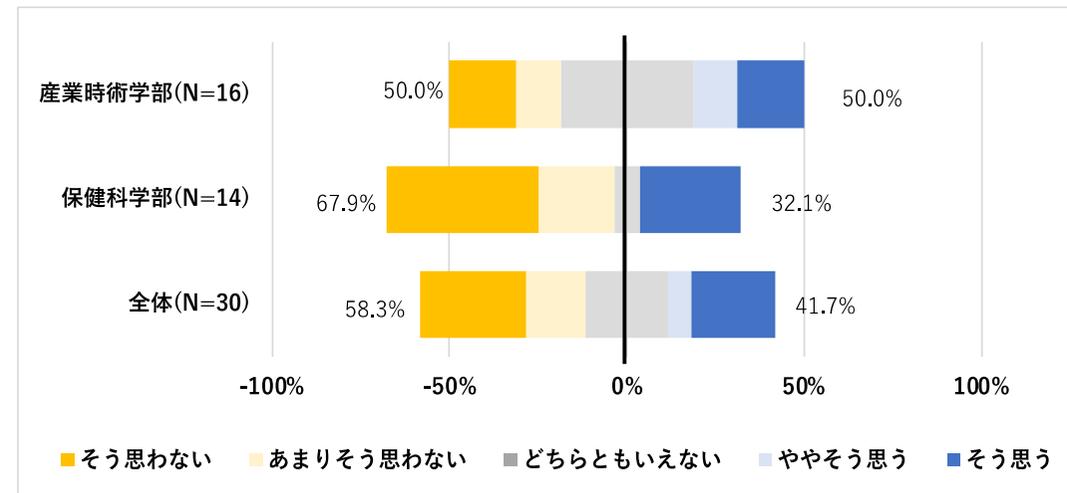
4. ポートフォリオ関係

- ポートフォリオへの不満は高い（ただし、満足している学生の存在には留意が必要か）

ポートフォリオを活用することで、学修習慣を身に付けることができた

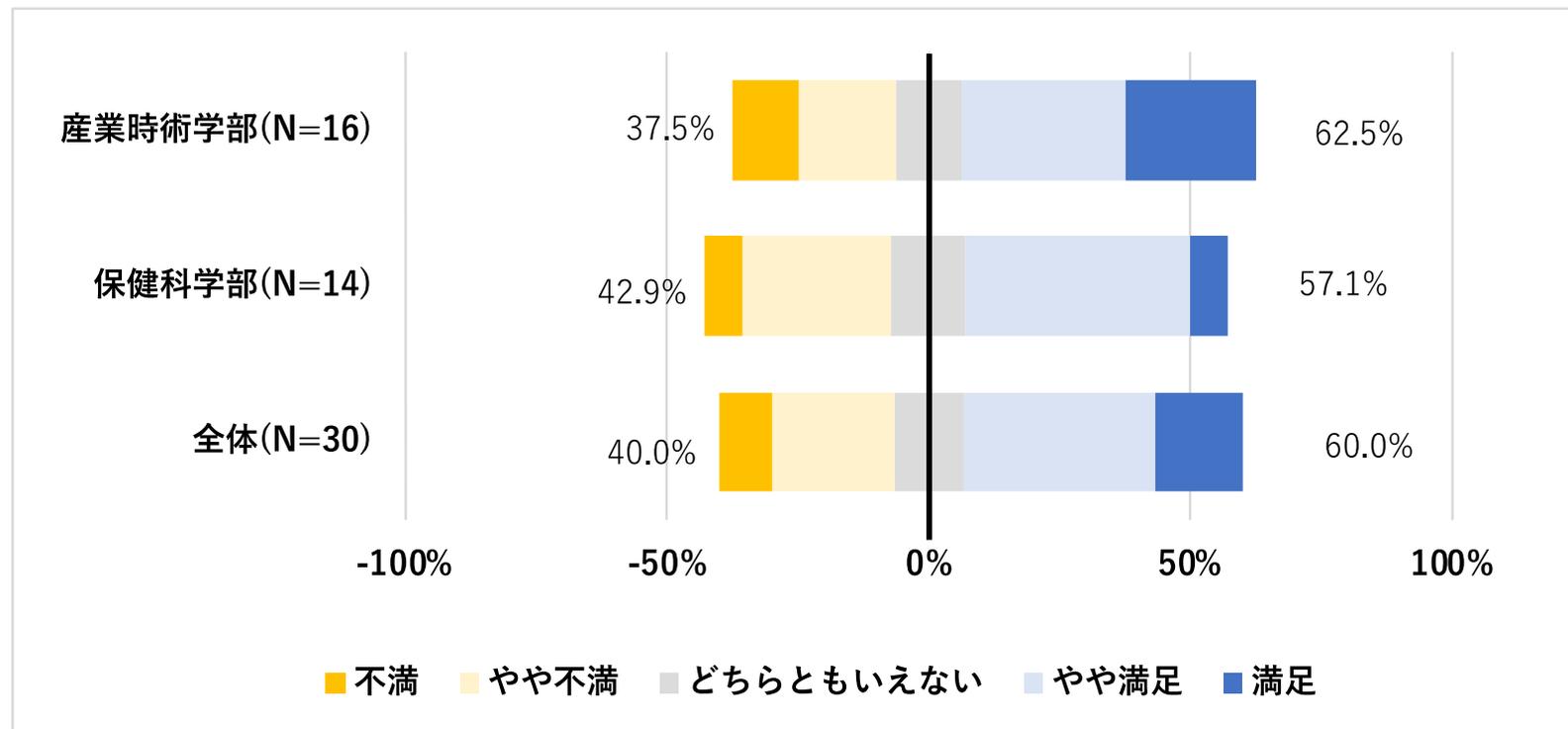


ポートフォリオを活用することで、キャリアデザインの設計に役立てられた



5. 食堂、自動販売機等の学生の厚生環境について

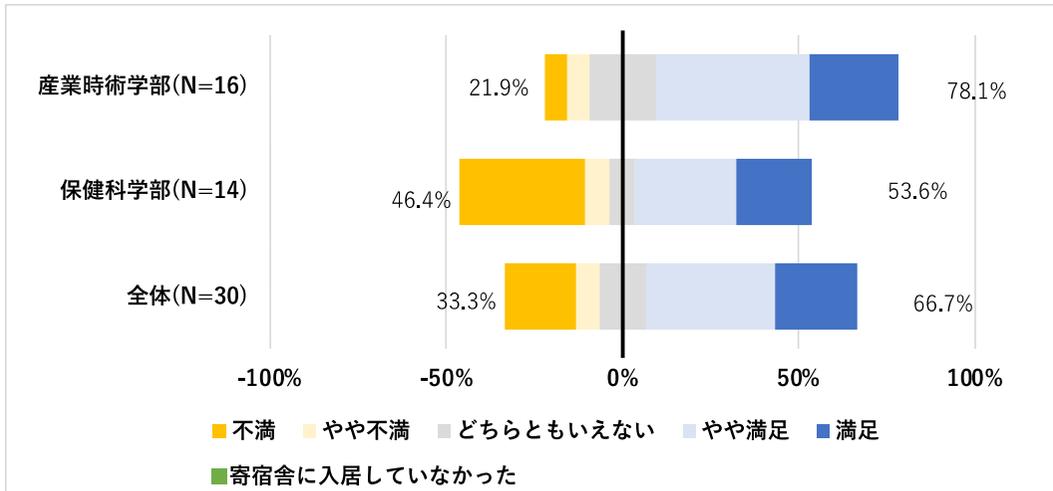
• 厚生環境への不満は両学部とも高い



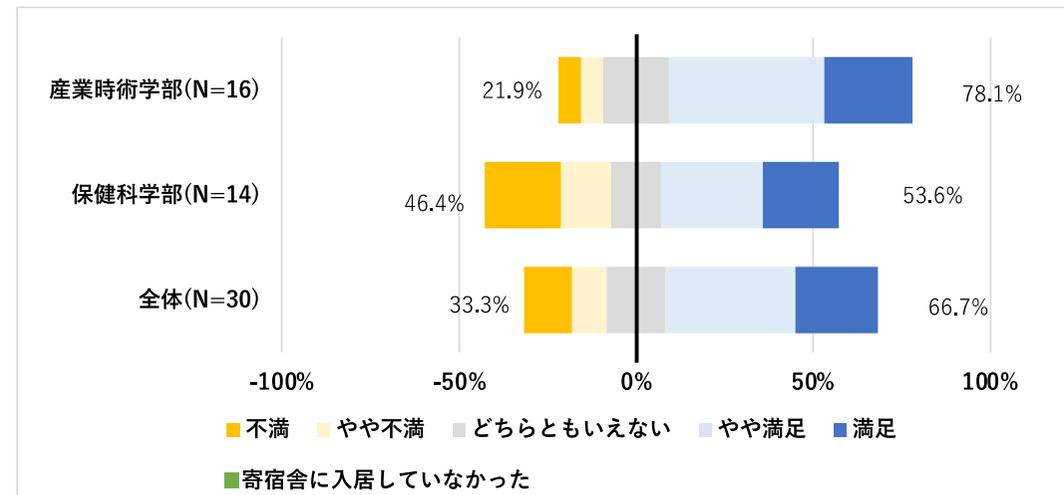
6. 学生寄宿舍について

- 学生寄宿舍については、保健科学部の不満が高い（施設・設備、管理体制ともに）

施設・設備（家電製品等）について

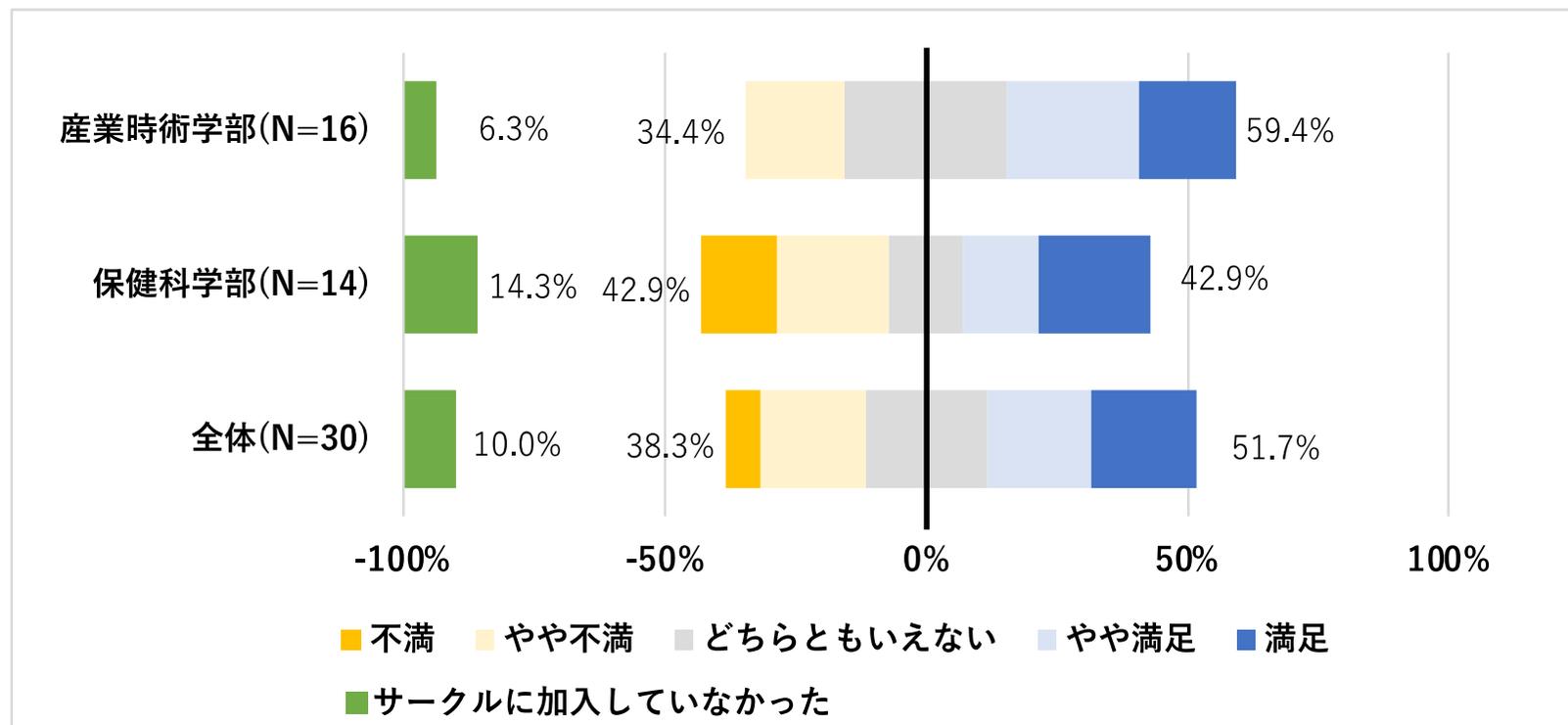


夜間・休日における寄宿舍管理体制について



7. 大学によるサークル活動に対する支援について

- サークル活動に対する支援については、両学部とも不満あり
(体育施設への不満と同様に感染対策の影響か)



国立大学法人筑波技術大学 令和4年度卒業時アンケート報告書

実施年月：令和5年3月13日（月）～3月31日（金）

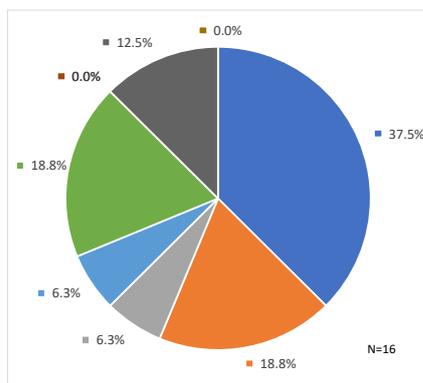
実施方法：Webアンケート

調査対象：卒業生71名（回答者30名、回答率42.3%）

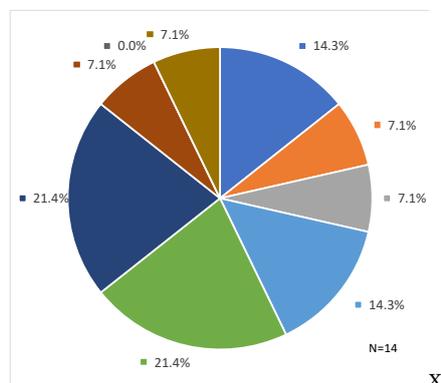
◆ 志望動機について

1-1. 筑波技術大学を志望した理由として、最もあてはまる項目を1つ選んでください。

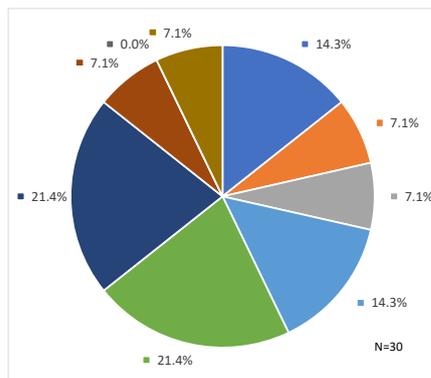
産業技術学部



保健科学部



学部全体



凡例

- 個々の学生の障害や特性に配慮した学修環境が整っているから
- 同じような障害のある学生同士で学び合えるから
- 国立大学だから
- 出身地に近い、もしくは実家から通えるから
- 自分の学力に見合っていたから
- 希望する専門分野があったから
- 幅広い知識や専門分野が学べるから
- 親や先生、先輩等から勧められたから
- 就職が有利だから
- 資格が取りやすいから
- その他

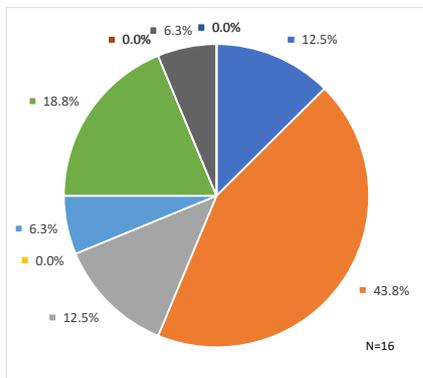
1-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は具体的にご記入ください。

回答なし

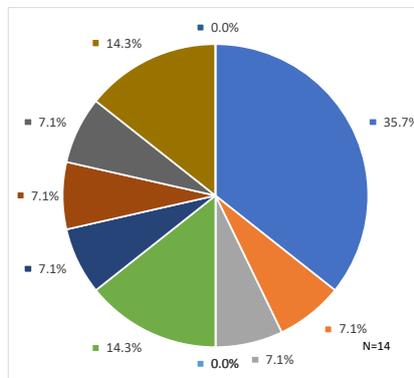
青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

2-1. 筑波技術大学を志望した理由として、2番目にあてはまる項目を1つ選んでください。

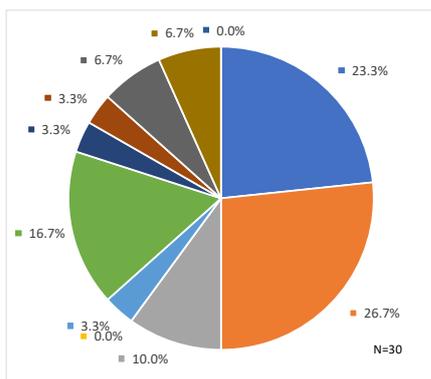
産業技術学部



保健科学部



学部全体



凡例

- 個々の学生の障害や特性に配慮した学修環境が整っているから
- 同じような障害のある学生同士で学び合えるから
- 国立大学だから
- 出身地に近い、もしくは実家から通えるから
- 自分の学力に見合っていたから
- 希望する専門分野があったから
- 幅広い知識や専門分野が学べるから
- 親や先生、先輩等から勧められたから
- 就職が有利だから
- 資格が取りやすいから
- その他

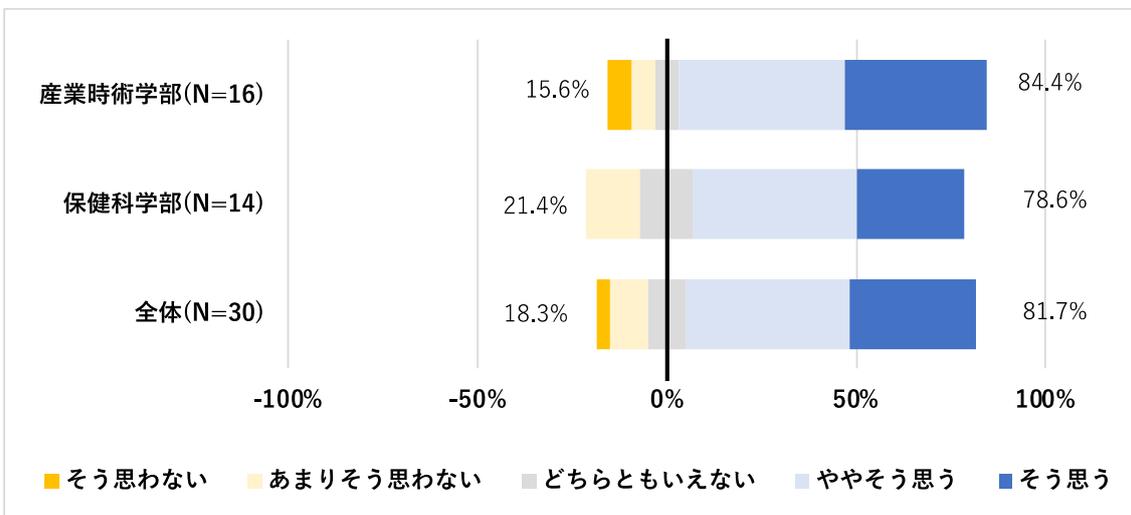
2-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は具体的にご記入ください。

回答なし

青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

◆ 大学への印象

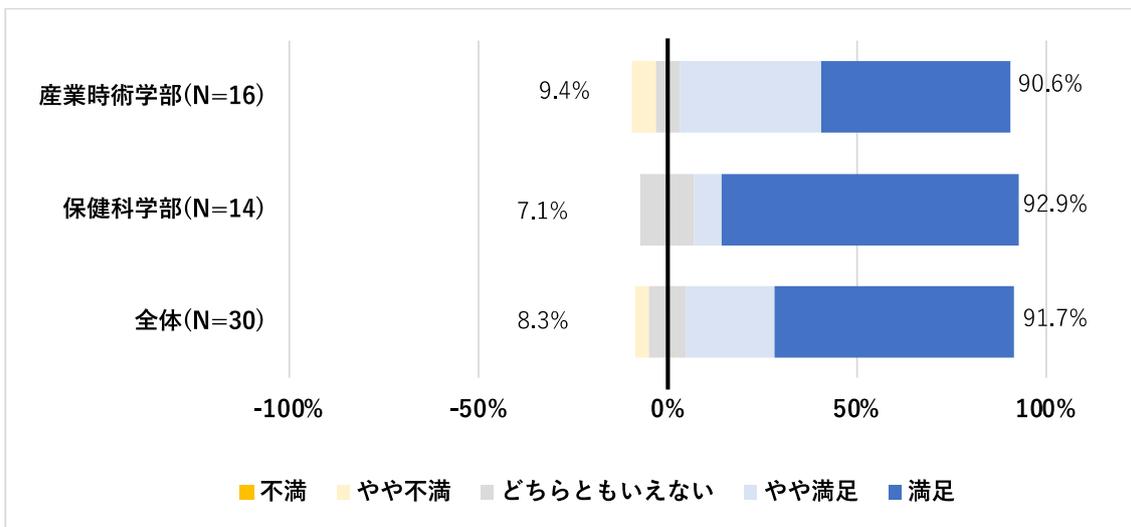
3. 入学前と比較して「筑波技術大学は良い大学だ」という思いは強まりましたか。



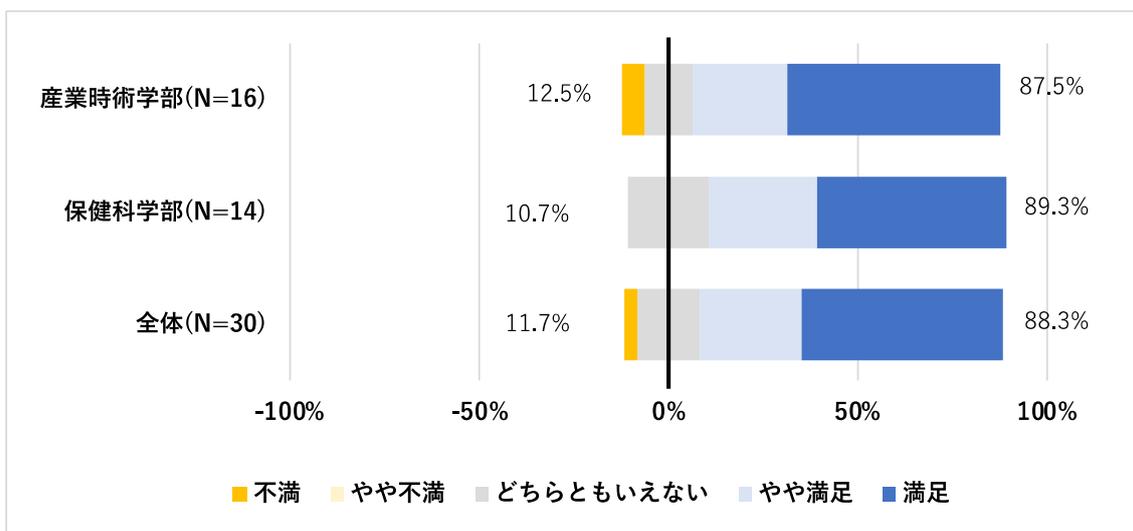
◆ 学修を促す環境

4. 障害に対する配慮について、以下の設問にお答えください。

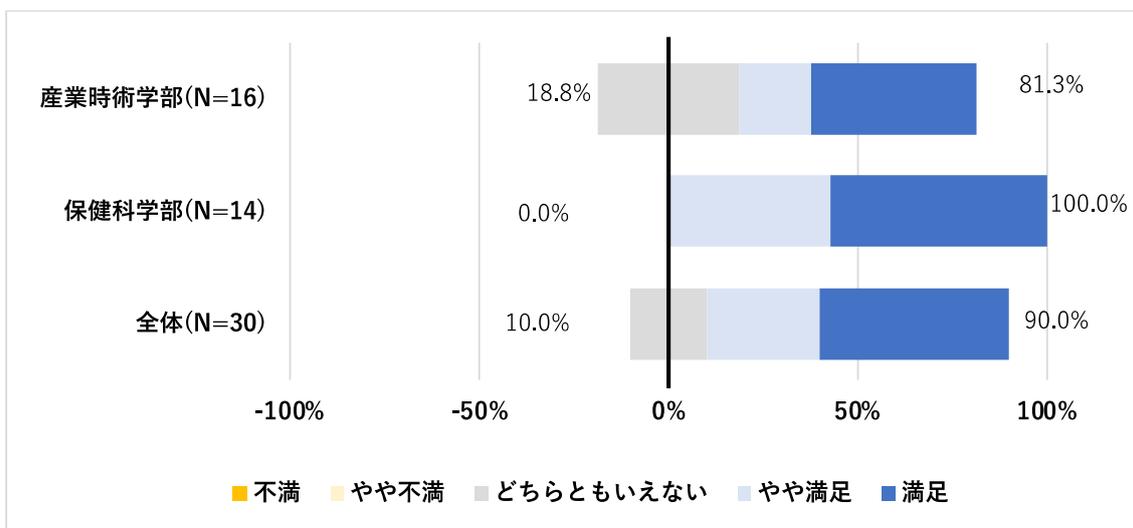
4-1. 情報保障設備 (CATV や拡大読書器等) について



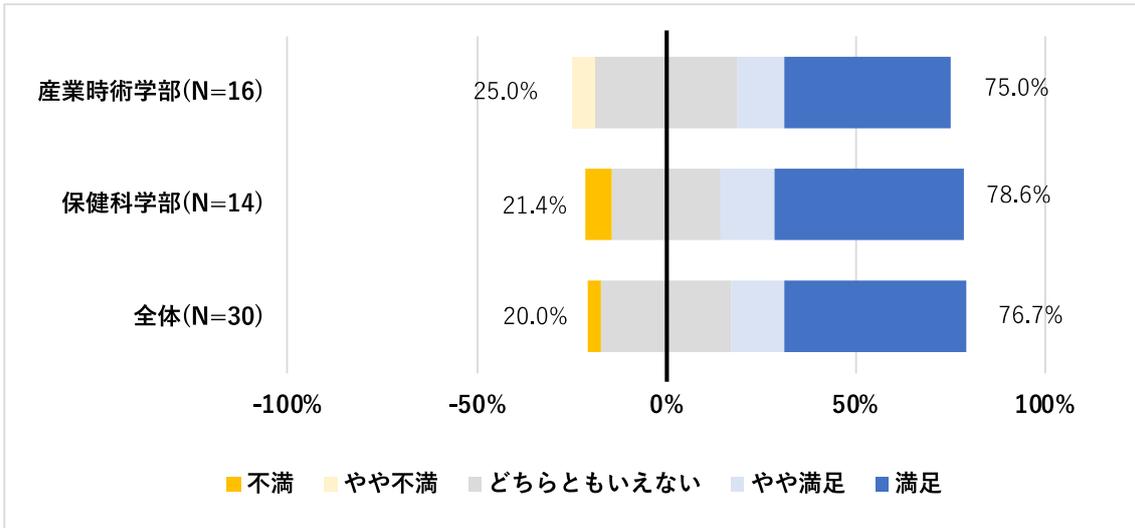
4-2. 授業におけるコミュニケーション保障（手話通訳、PC 文字通訳、拡大表示、触図等）について



4-3. 移動のための補償手段（手すり、スロープ、点字ブロック等）について

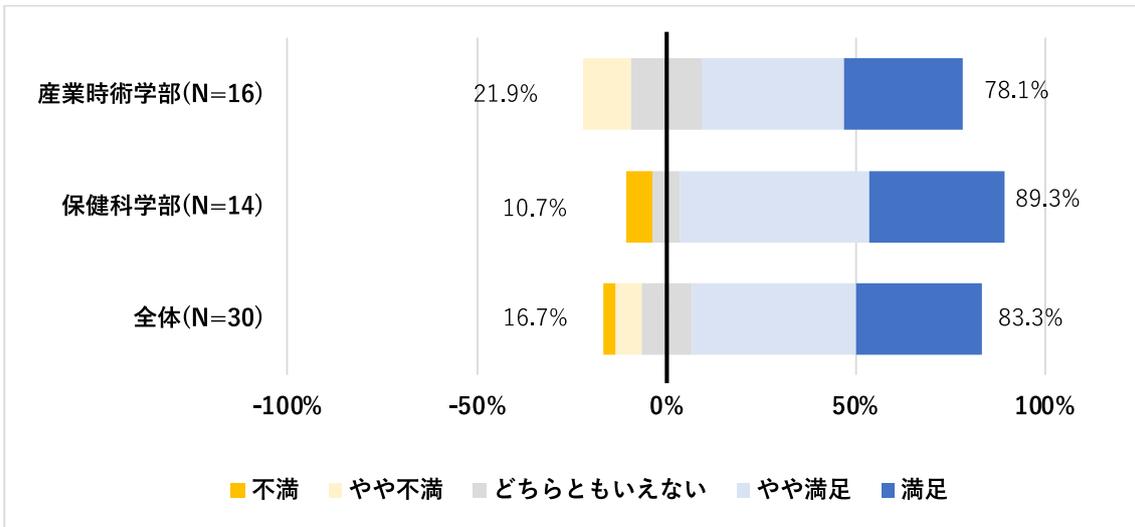


4-4. 障害補償（聴覚の管理、補聴器活用支援、発音訓練、ルーペ等の選定・使い方指導、点字指導、歩行訓練等）について

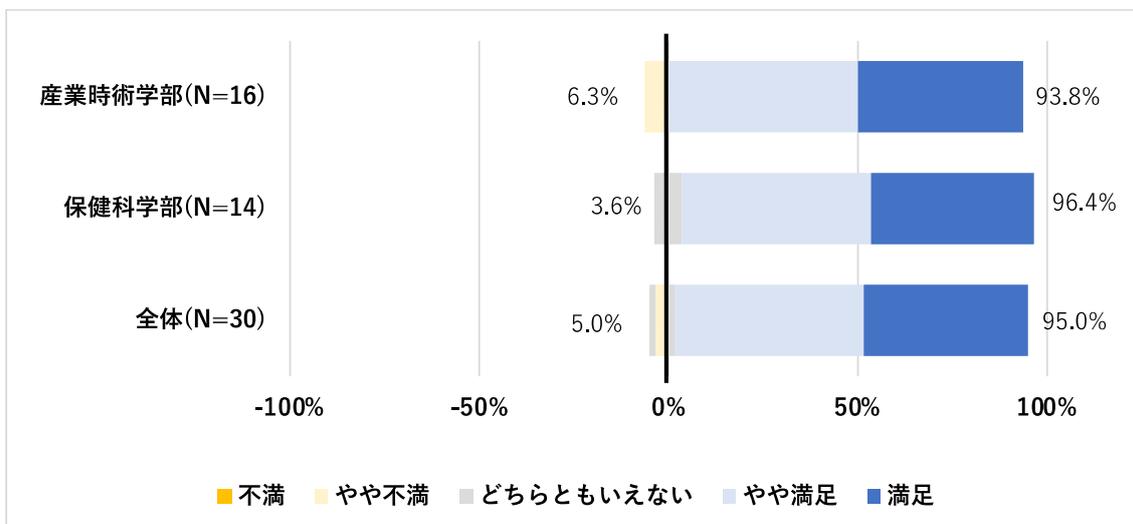


5. 学修環境について、以下の設問にお答えください。

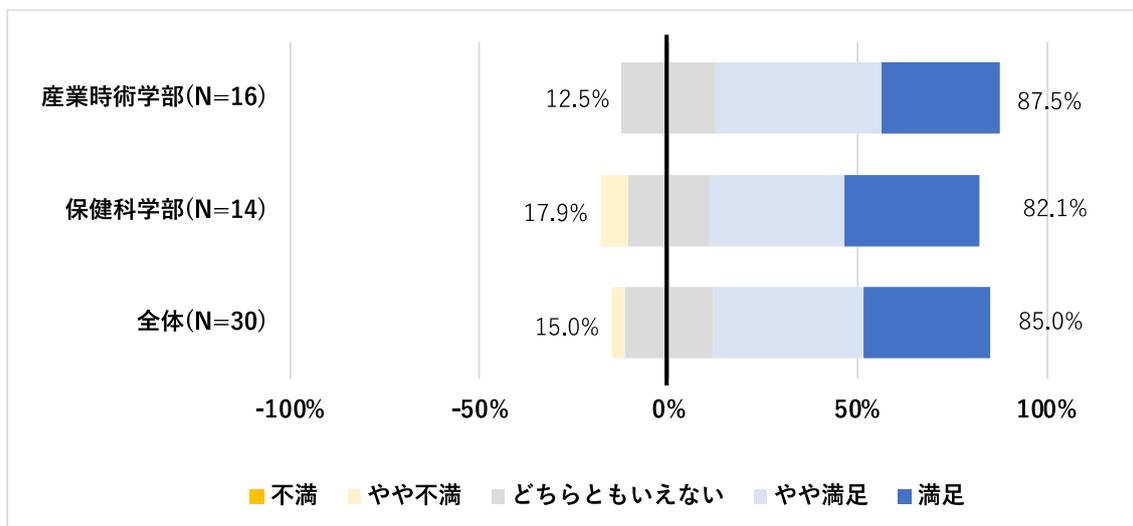
5-1. 自学自習できる環境（設備等）について



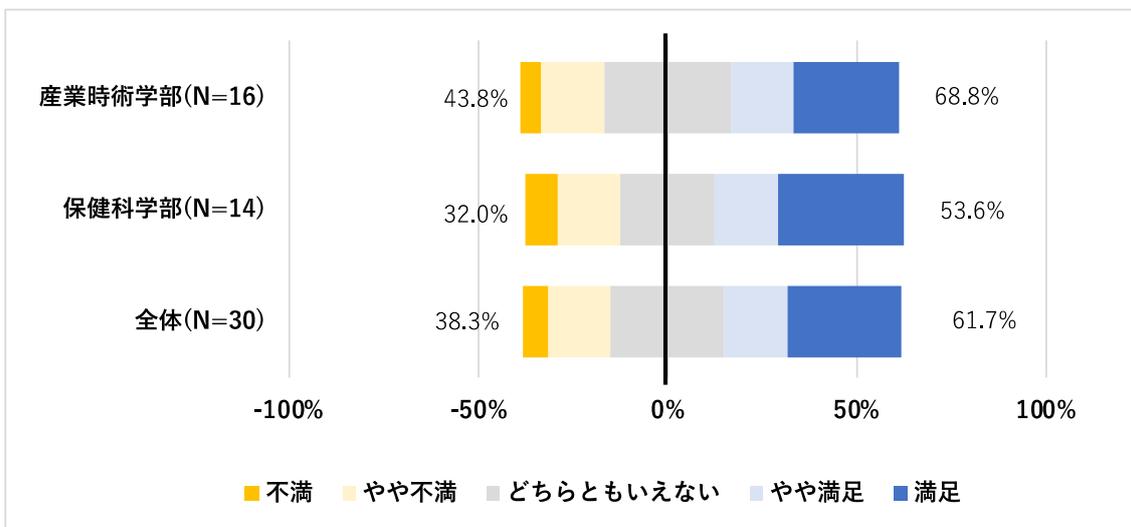
5-2. 授業や実習、実験等の教育設備・機器について



5-3. 附属図書館等、学習に必要な情報提供について



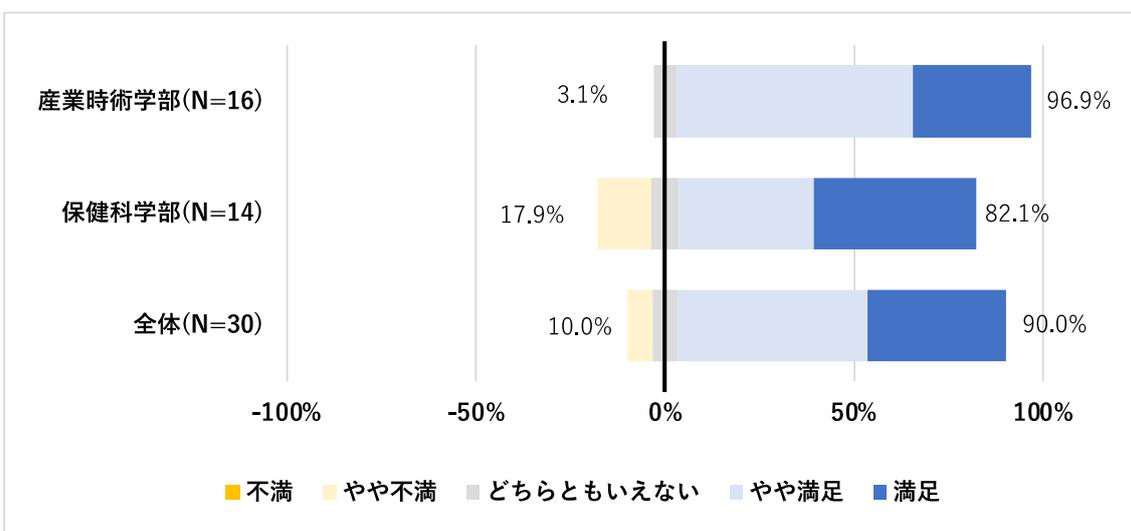
5-4. 体育館やグラウンド等の体育施設について



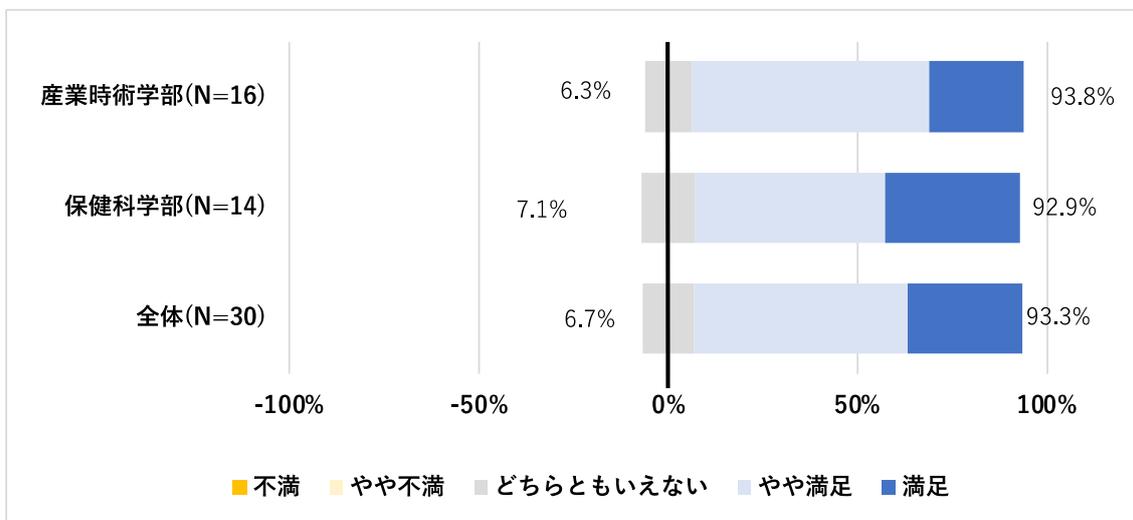
◆ 授業・卒業研究

6. 授業について、以下の設問にお答えください。

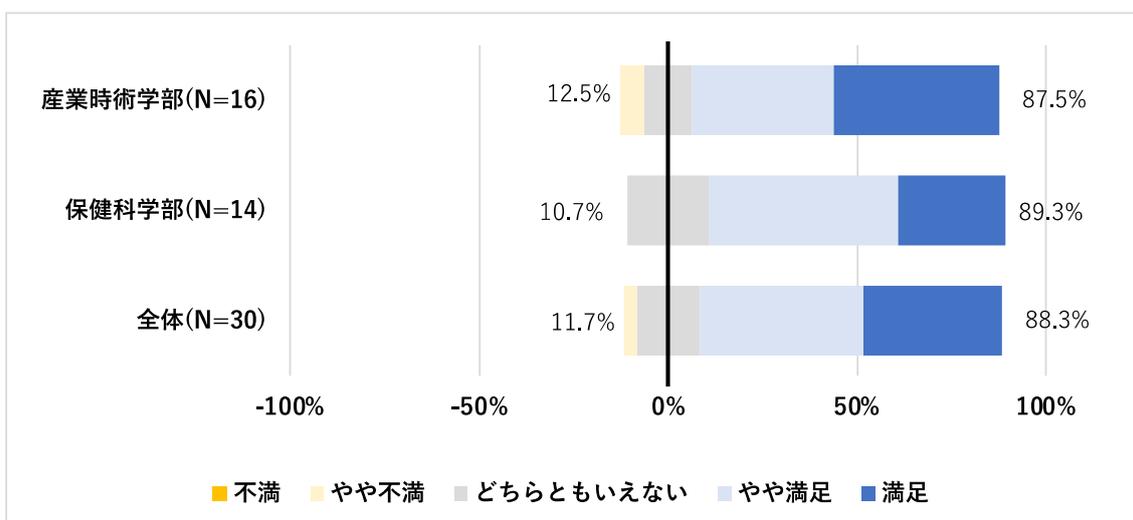
6-1. 専門教育系科目の授業内容について



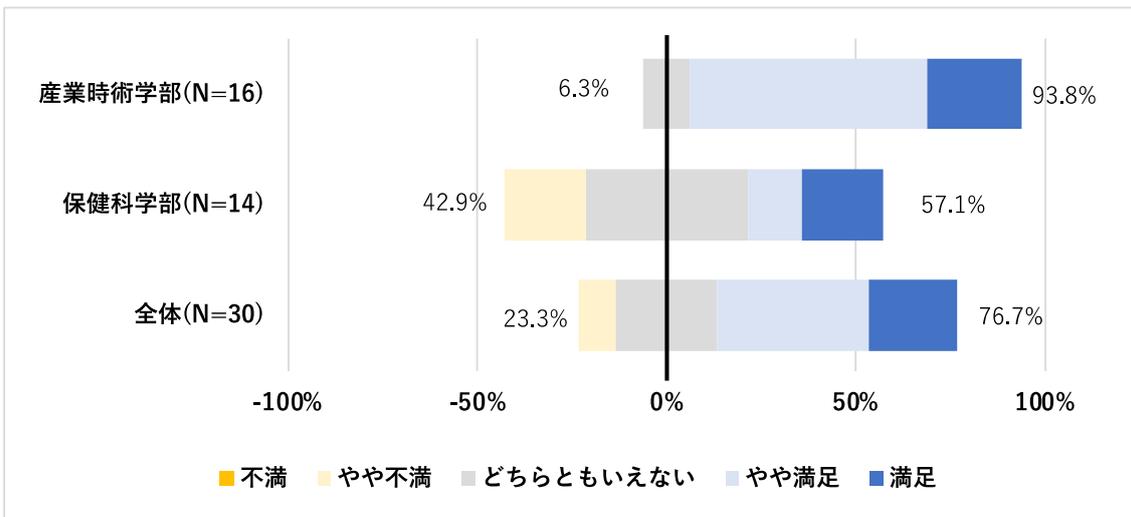
6-2. 教養教育系科目の授業内容について



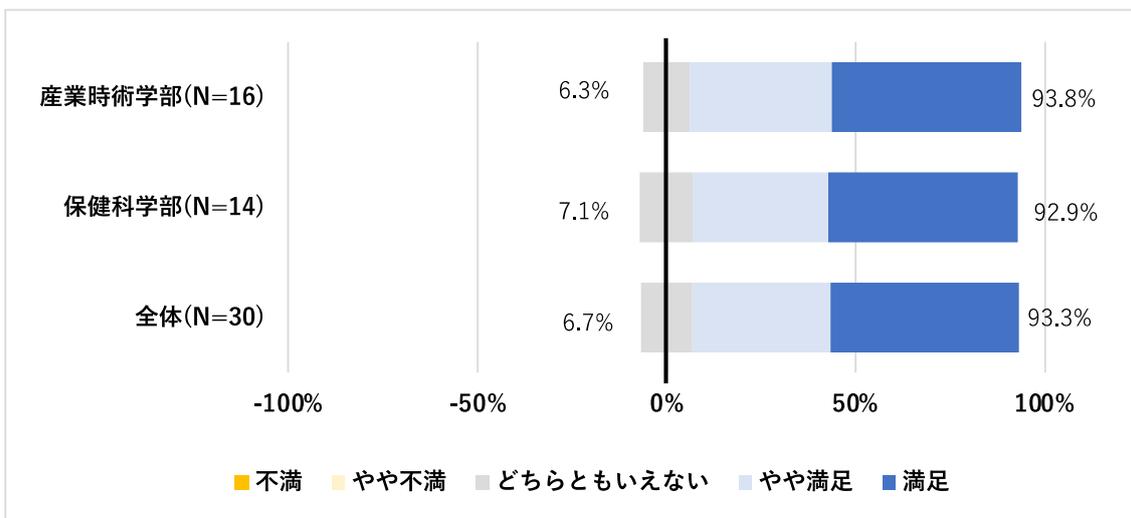
6-3. 学びたい授業科目が開設されていたか



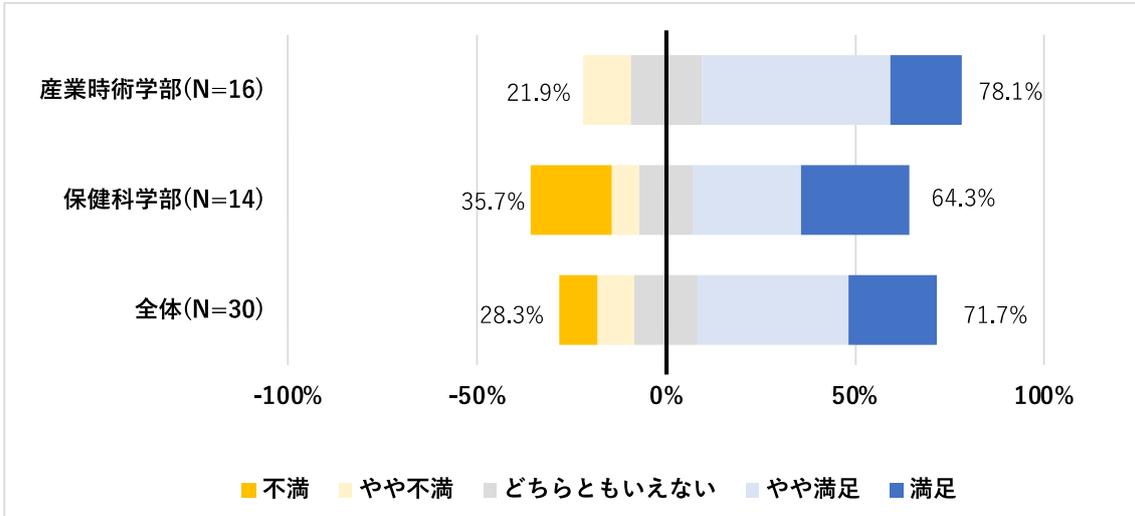
6-4. 授業科目はシラバスの内容に沿って行われていたか



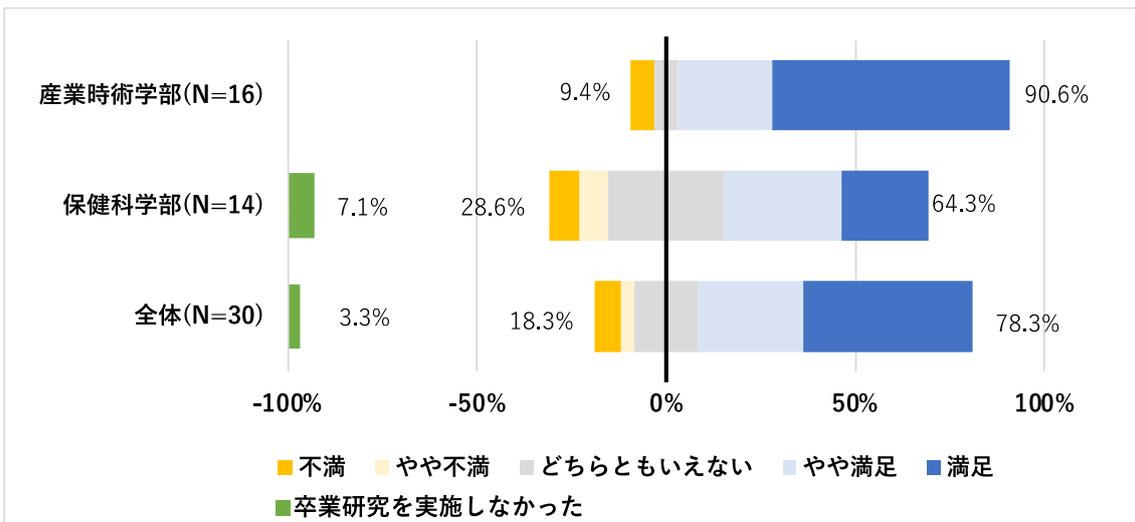
6-5. グループ・ワークやプレゼンテーション等のアクティブラーニングを取り入れた授業について



6-6. 学生の意向を教育に反映させるシステム（授業評価アンケート）について



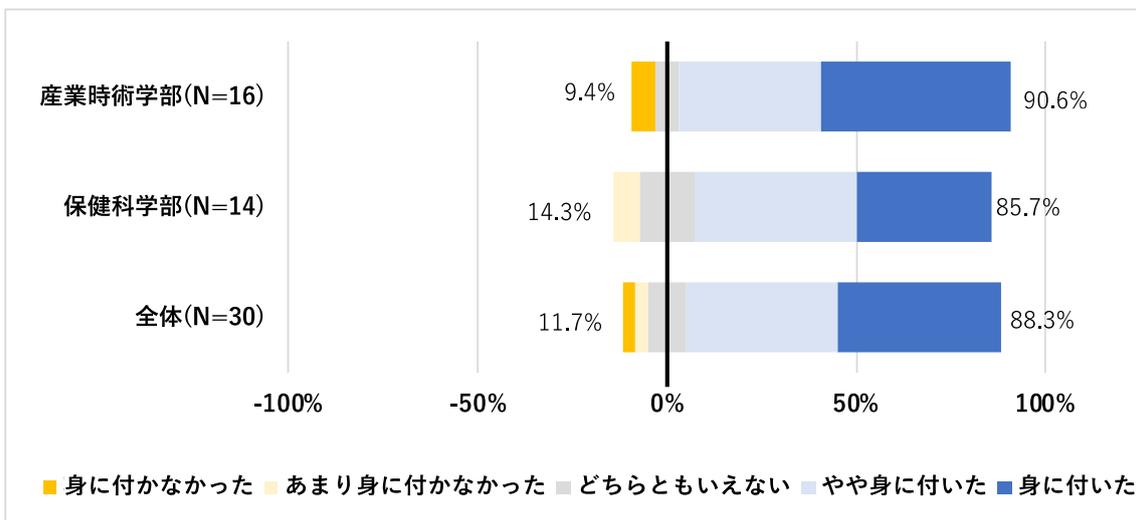
7. 卒業研究について、以下の設問にお答えください。



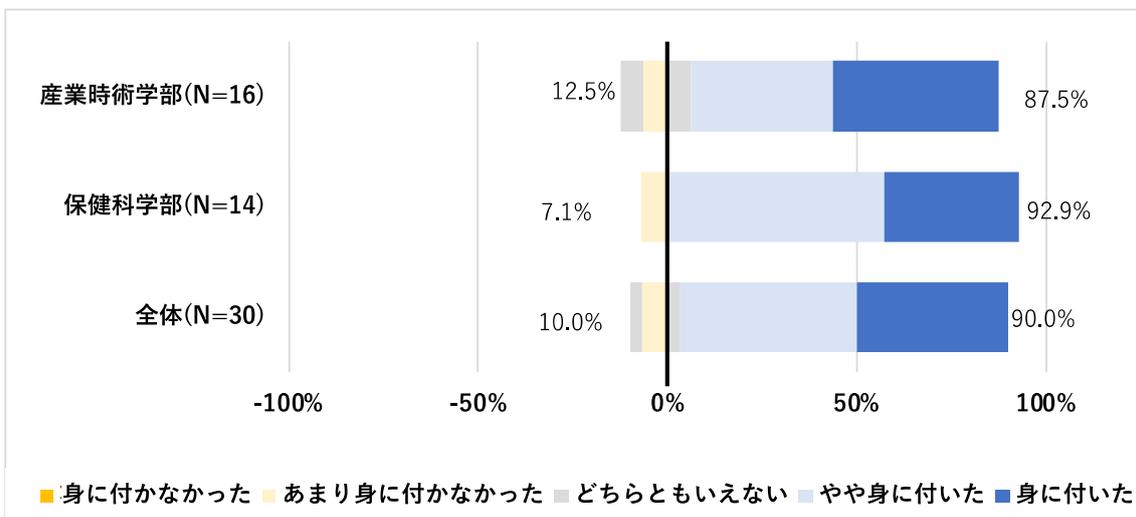
◆ ディプロマポリシー等の達成状況

8. 大学の教育によって、入学時と比べて以下の能力がどの程度身に付いたと思いますか。

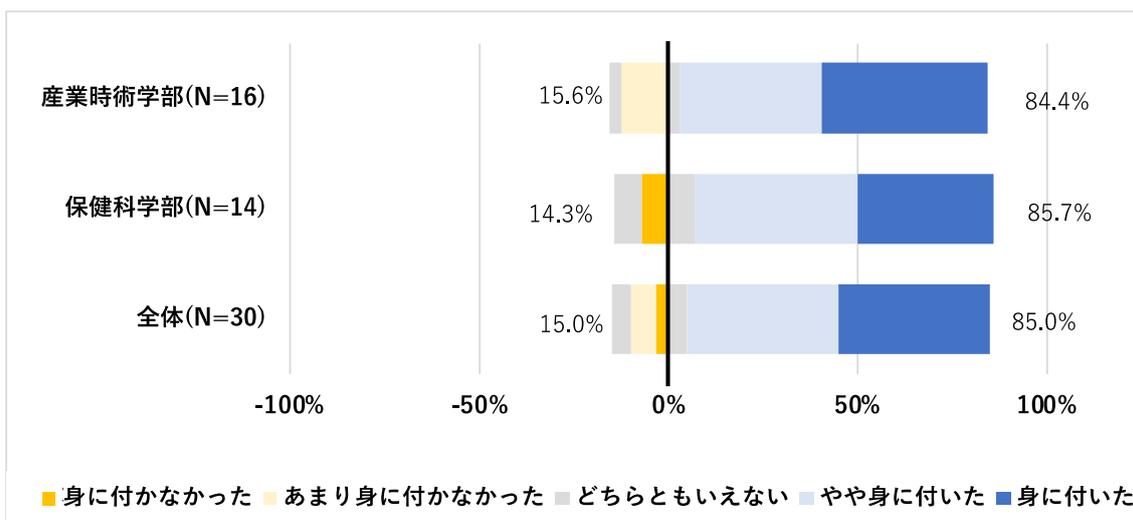
8-1. 幅広く豊かな教養



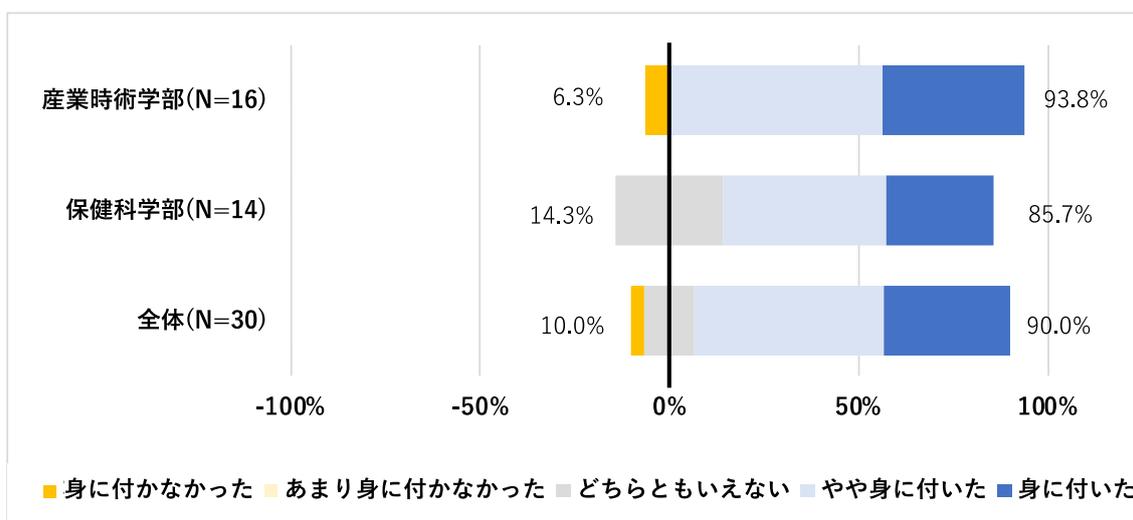
8-2. 高度な専門知識・技術



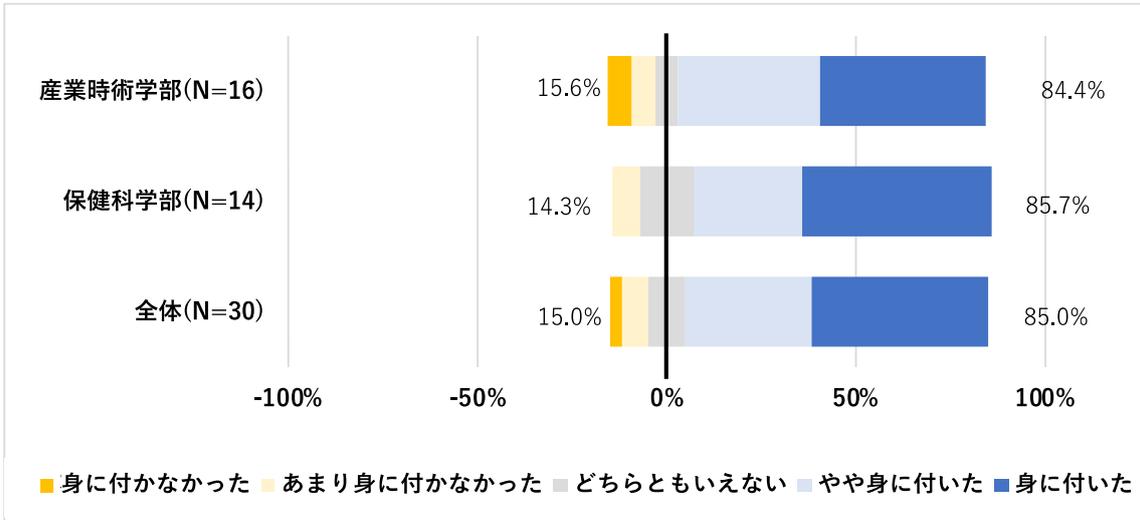
8-3. 主体的に考え自律的に行動する力



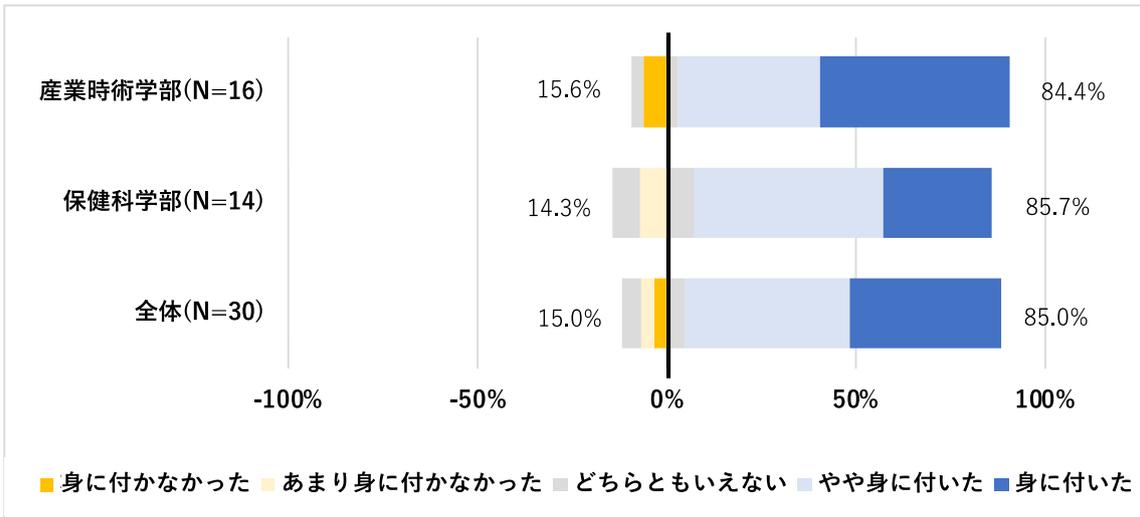
8-4. 論理的に思考し問題を解決する力



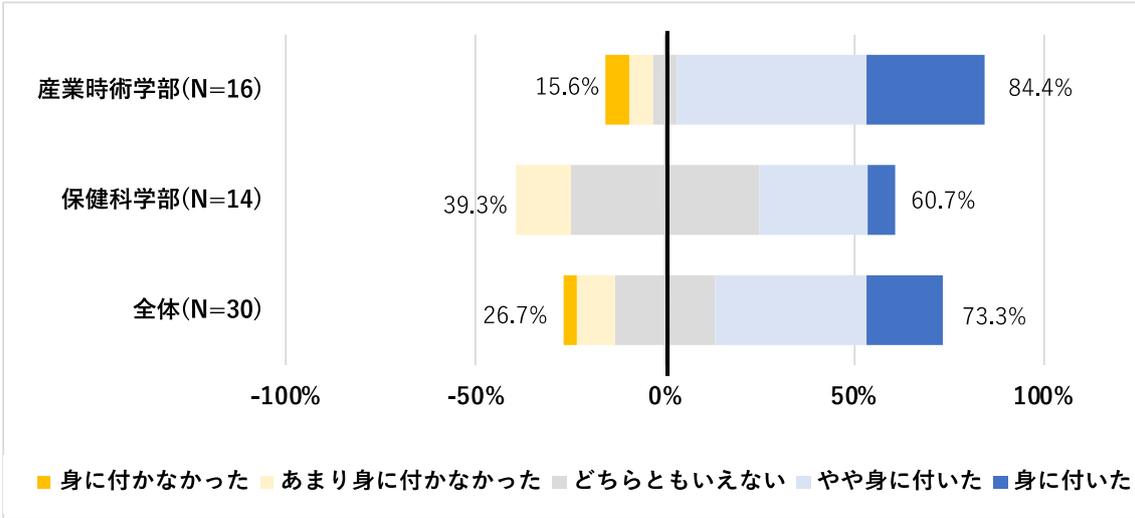
8-5. 自立した社会人・職業人として社会に貢献できる対人コミュニケーション能力



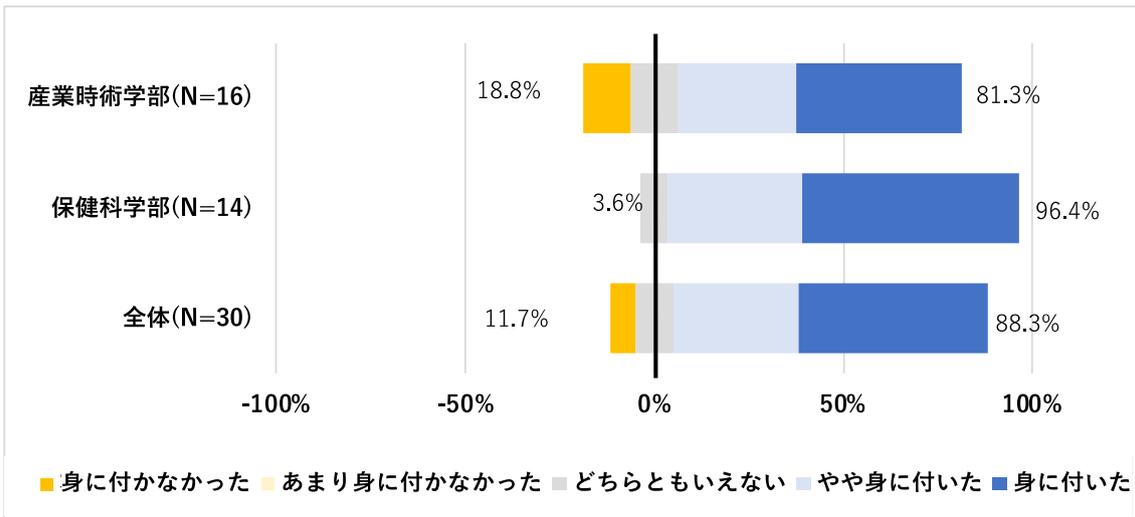
8-6. 共生社会の実現に向け、多様な文化を理解する力



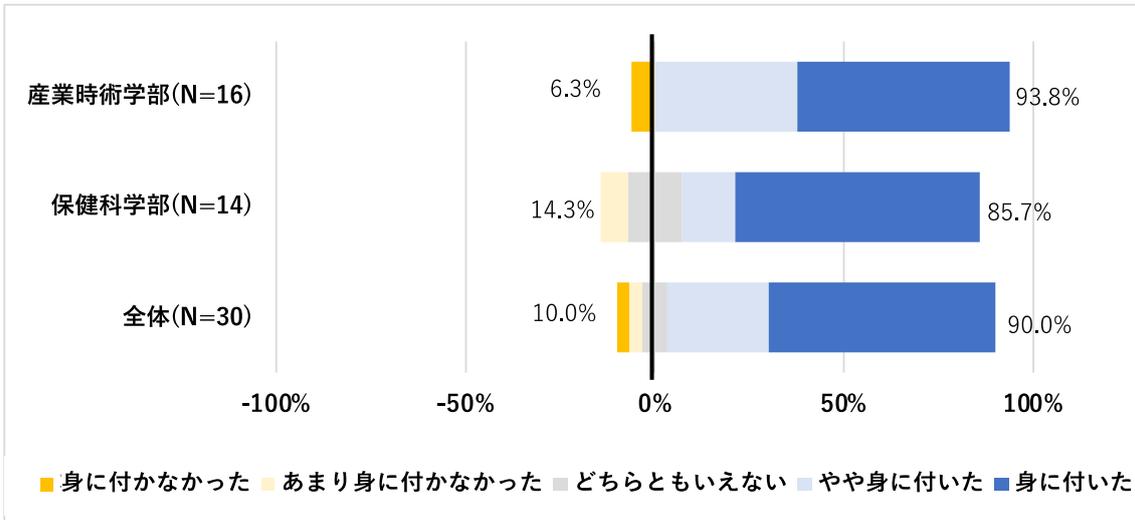
8-7. 共生社会の実現に向け、グローバルな幅広い視野を持って発信・行動する力



8-8. 自分の将来を設計し、実現のために努力することができる力



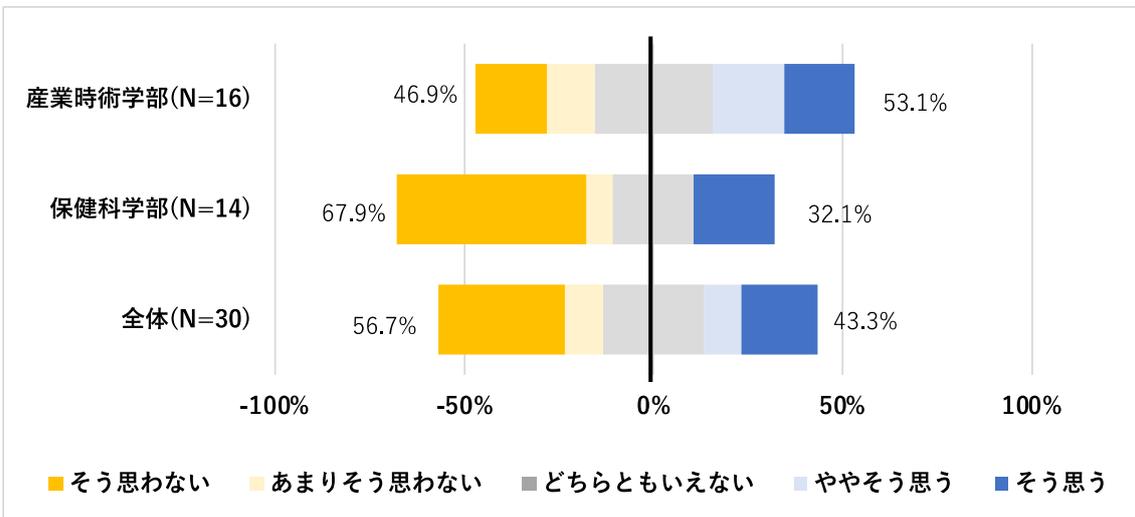
8-9. 自分の障害を理解した上で、必要な支援が何かを考えて周囲にはたらきかけることができる力



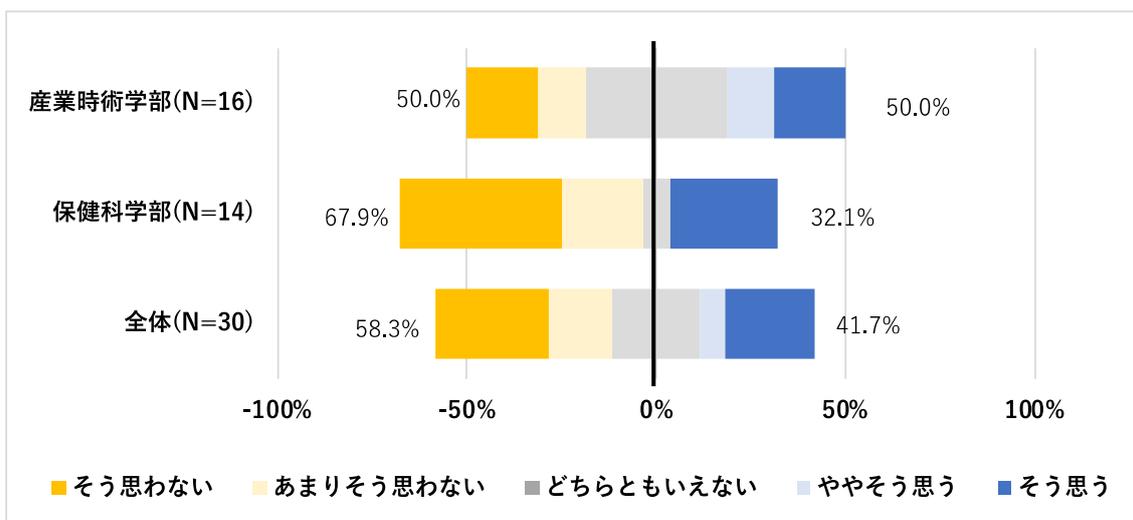
◆ ポートフォリオ

9. ポートフォリオの活用について

9-1. ポートフォリオを活用することで、学修習慣を身に付けることができた



9-2. ポートフォリオを活用することで、キャリアデザイン的设计に役立てられた



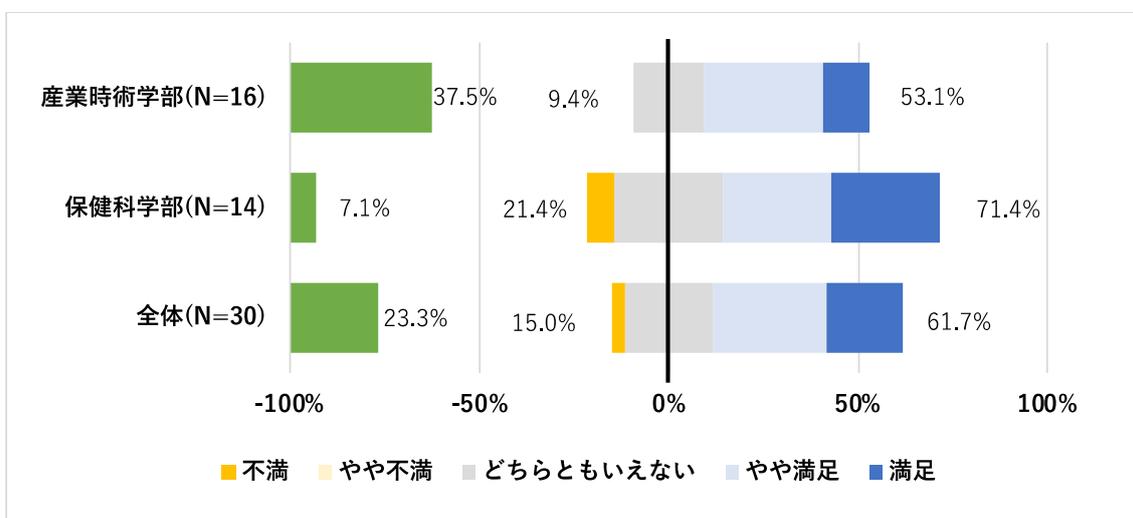
10. ポートフォリオについて、どのような改善がなされたら活用しやすくなると思いますか

- ・ポートフォリオを使ったことがないので答えられません。
- ・データでまとめることができ、いつでもすぐに関覧できればもっと活用するのではないかと感じる。
- ・書面ではなくデータを活用した入力形式を導入する
- ・AA 担当によって使用法が全く異なるので、一元化するか廃止した方が良いと思う
- ・もっと急かして欲しい
- ・ポートフォリオって何でしたっけ
- ・あまり分かりません
- ・2年生以降でもポートフォリオの相談が出来るような環境を作って欲しい。2年生以降は自分で考えろと言われたから

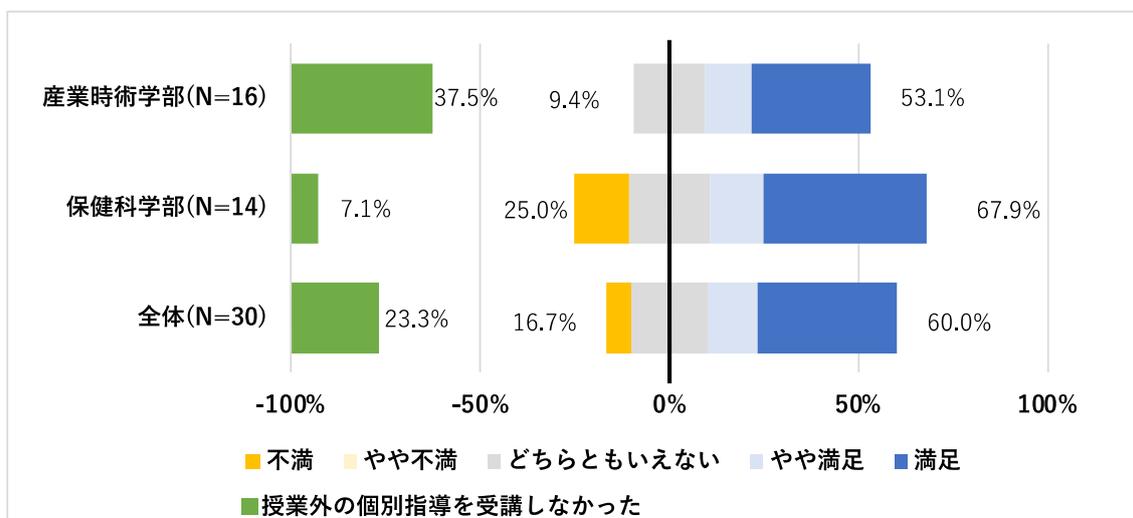
青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

◆ 資格取得・授業外の個別指導

1 1. はり師やきゅう師、理学療法士、建築士、教員免許等の資格取得の環境について



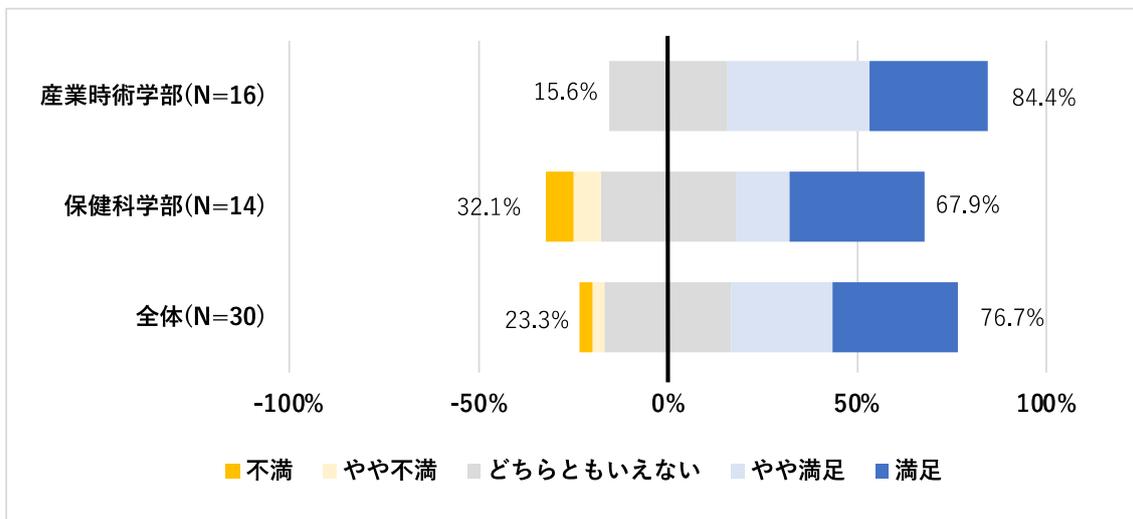
1 2. 授業外の個別指導の実施について



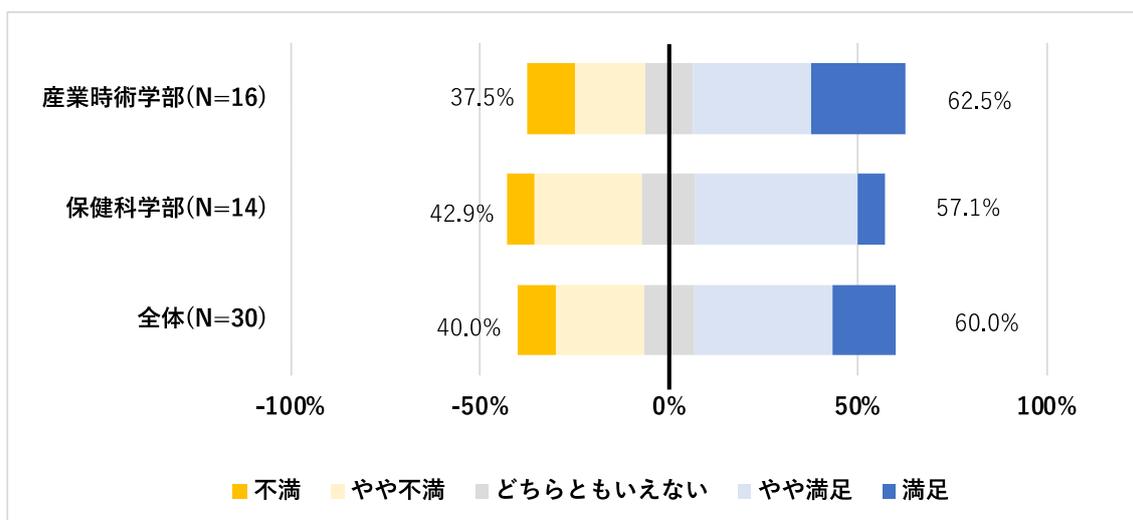
◆ 学修以外の環境

13. 学生生活支援について、以下の設問にお答えください。

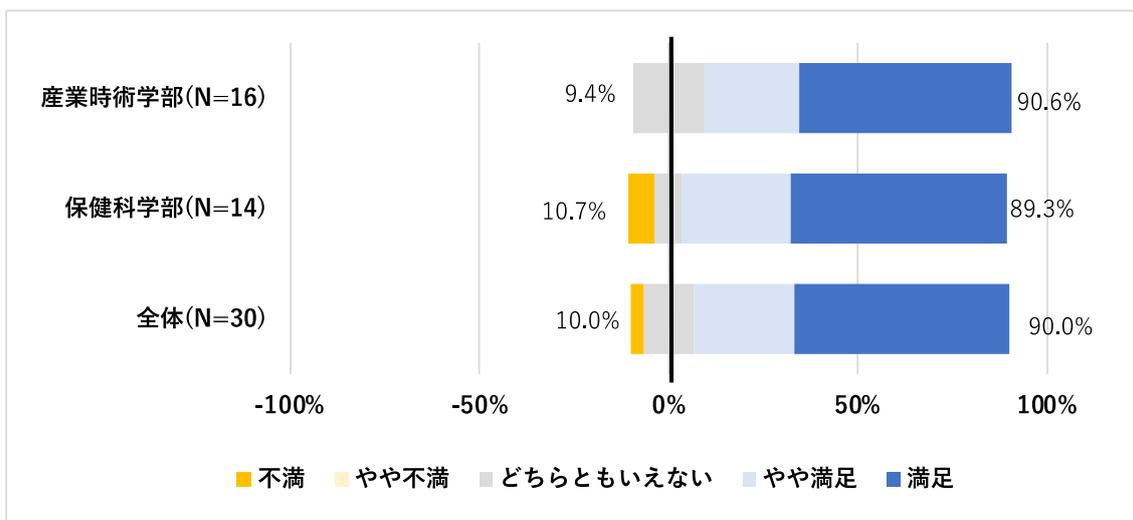
13-3. 学生相談、健康相談、ハラスメント相談等、相談できる環境について



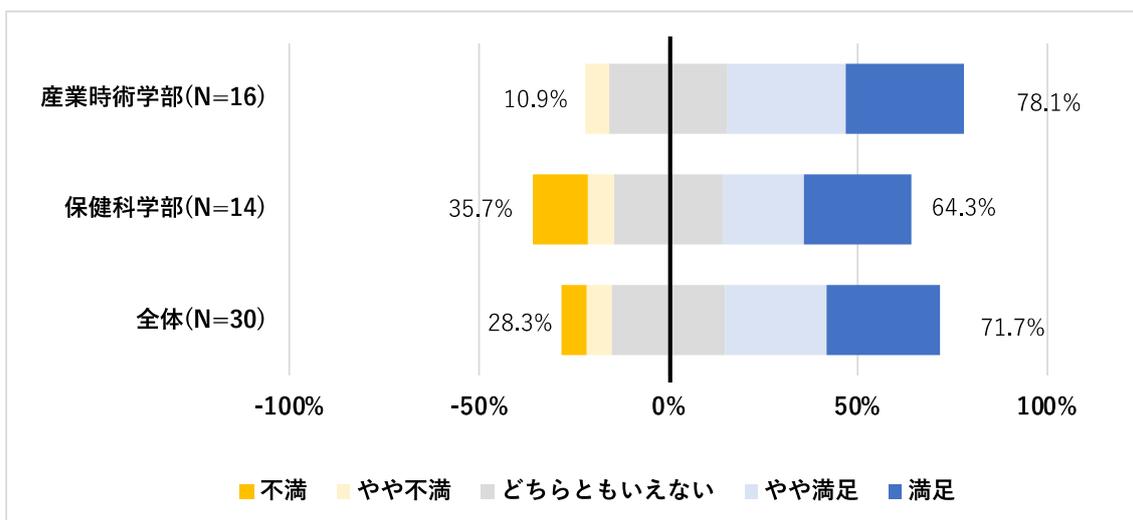
13-4. 食堂、自動販売機等の学生の厚生環境について



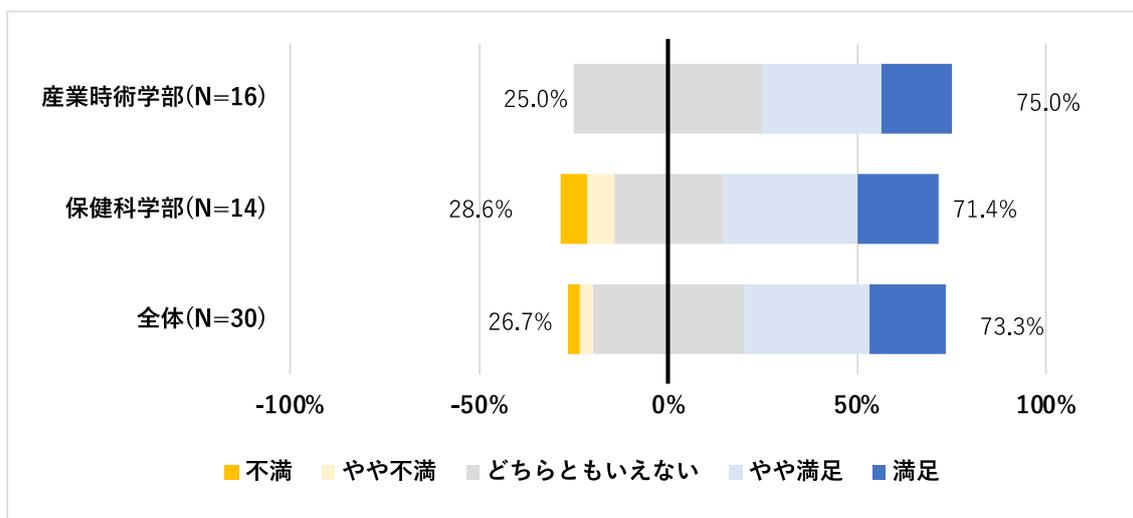
13-5. 大学による学生生活に対する支援（経済的支援等）について



13-6. 教職員による学生生活支援（クラス担任への相談等）について

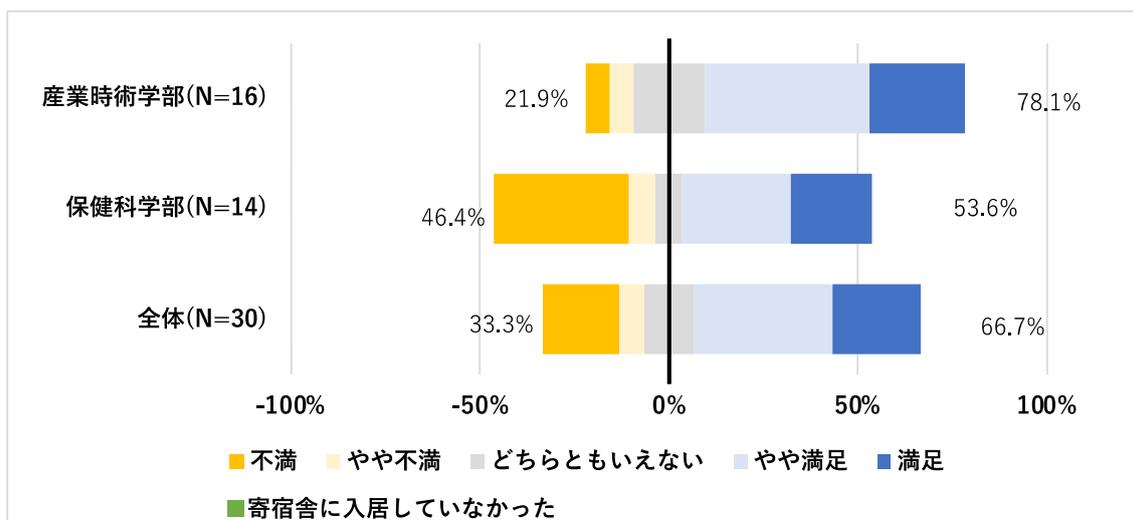


13-7. アドバイザー制度（例：アカデミック・アドバイザー等）について

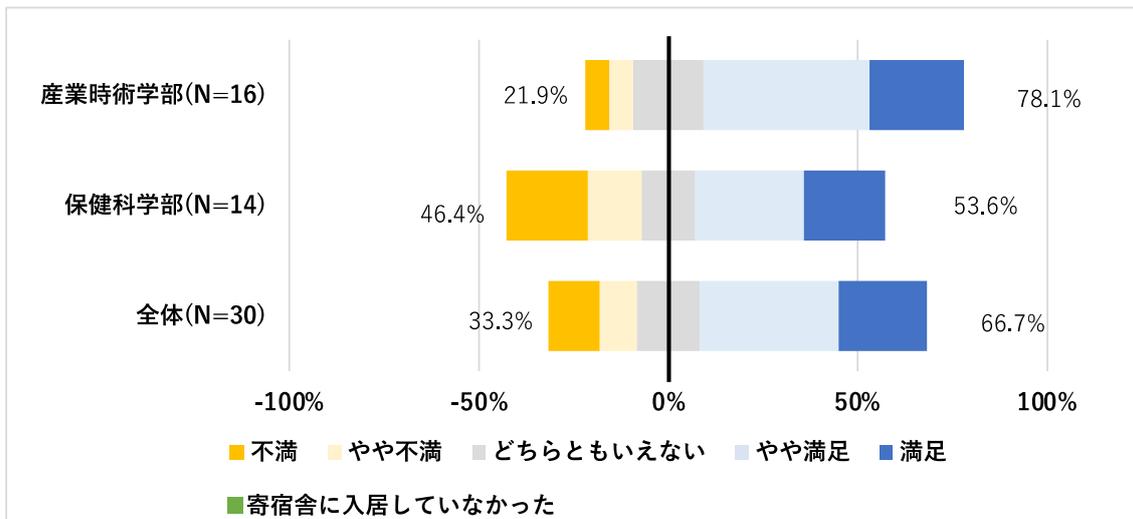


14. 学生寄宿舎について、以下の設問にお答えください。

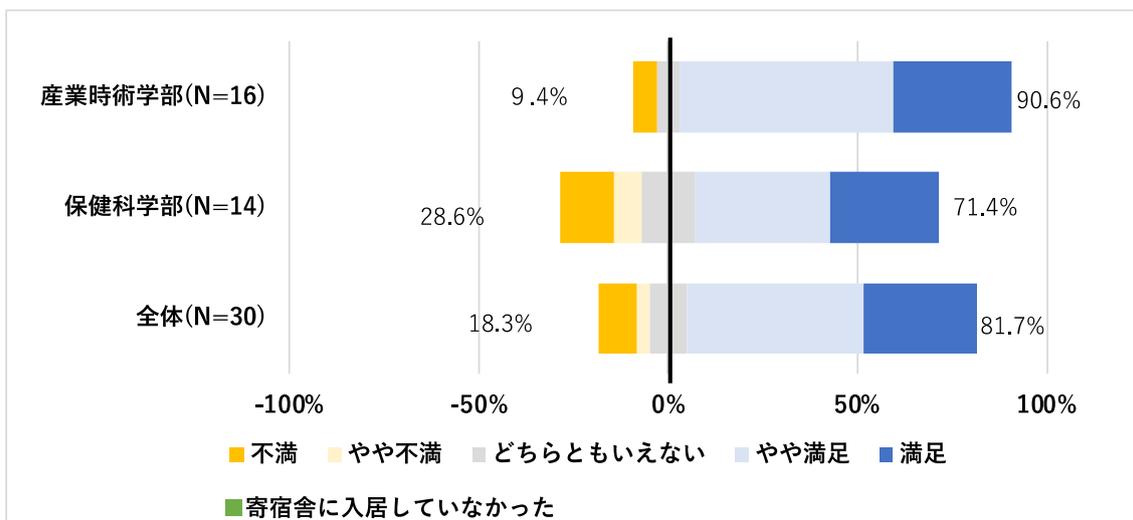
14-1. 施設・設備（家電製品等）について



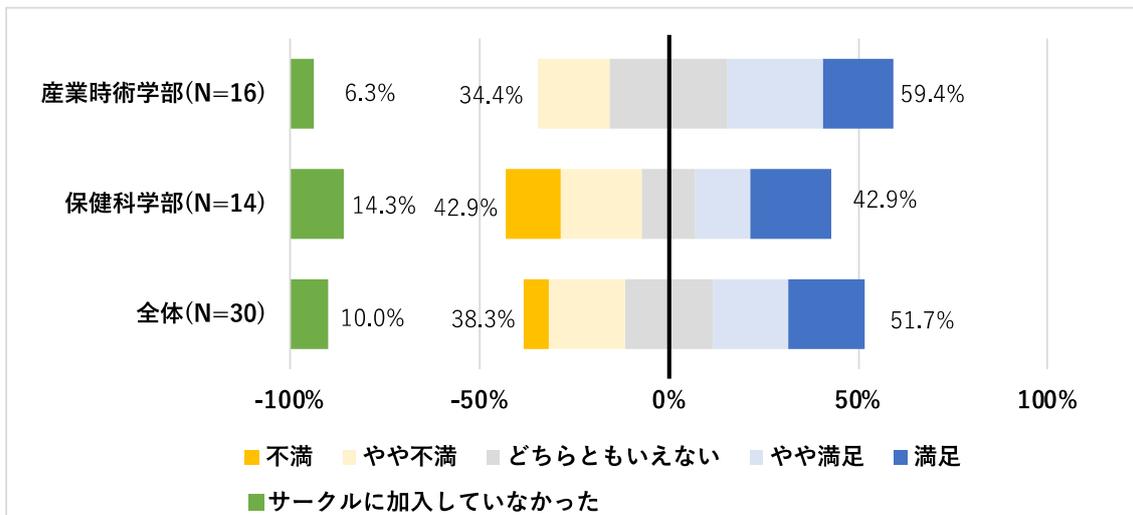
14-2. 夜間・休日における寄宿舍管理体制について



14-3. 寄宿料・共益費について



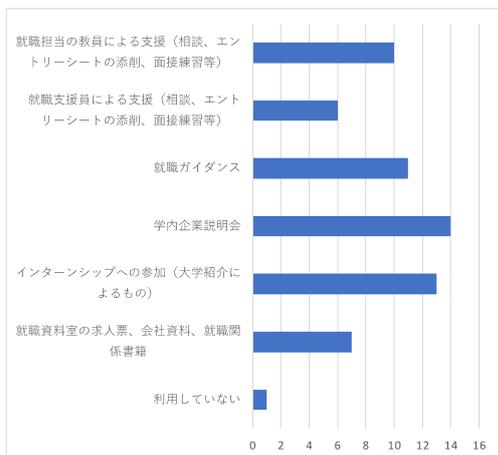
15. 大学によるサークル活動に対する支援について



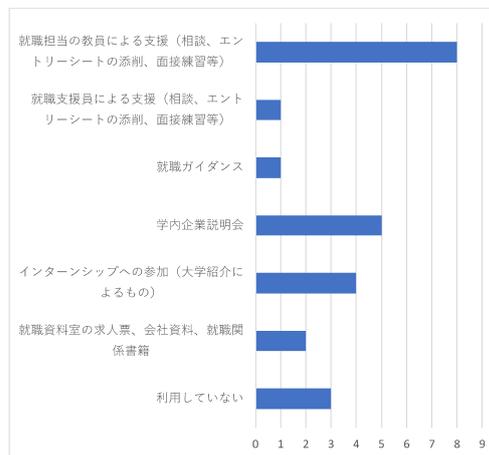
◆ キャリア支援

16-1. 大学で行っているキャリア支援のうち、利用したことがあるものを全て選んでください。(複数回答)

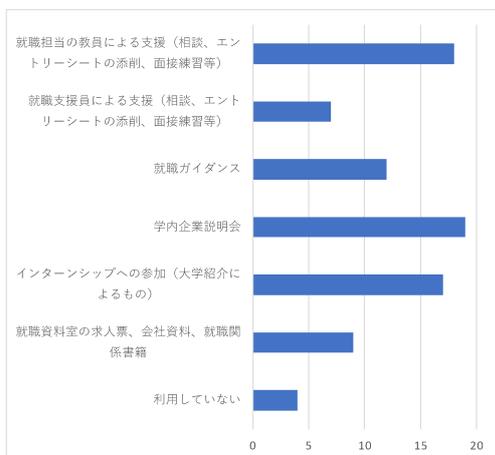
産業技術学部



保健科学部



学部全体



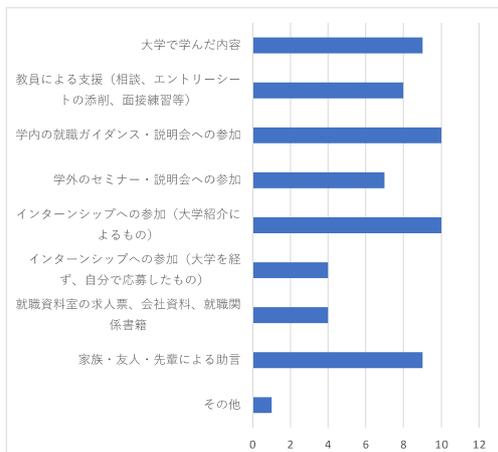
16-2. 上記の設問で「利用していない」を選択した方は、その理由を教えてください。

- ・ 教員からの案内がなかった
- ・ 役に立たなそうだったから
- ・ 特にガイダンスもなく役に立ちそうでなかったため。
- ・ 無くても就職出来るため。

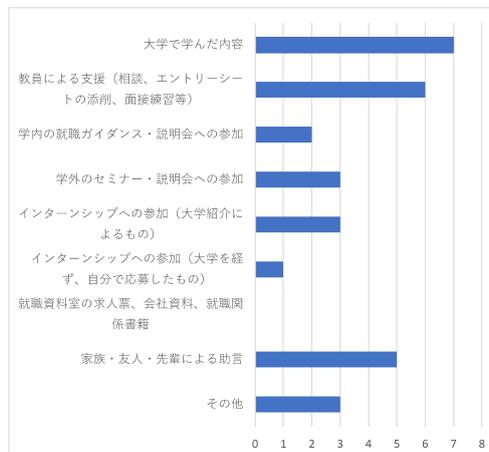
青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

17-1. 進路を決定する際に役立ったものについて、当てはまるものを全て選んでください。
(複数回答)

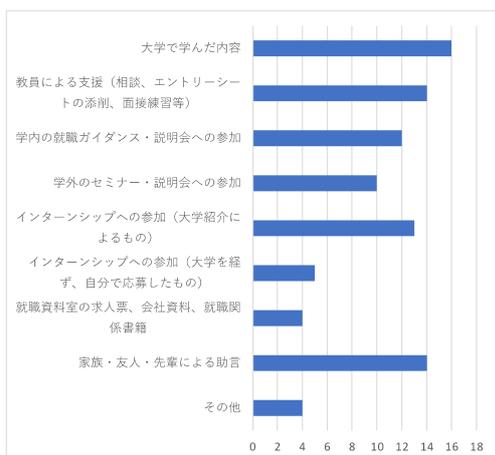
産業技術学部



保健科学部



学部全体

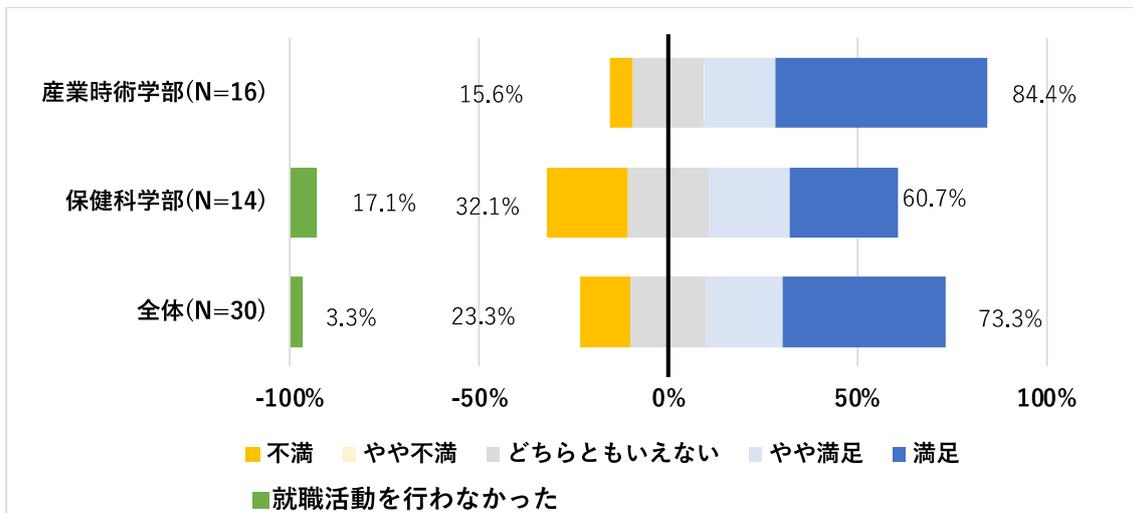


17-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

- ・ハローワーク
- ・進路決まらなかった
- ・自分自身の基礎能力
- ・己の開拓精神

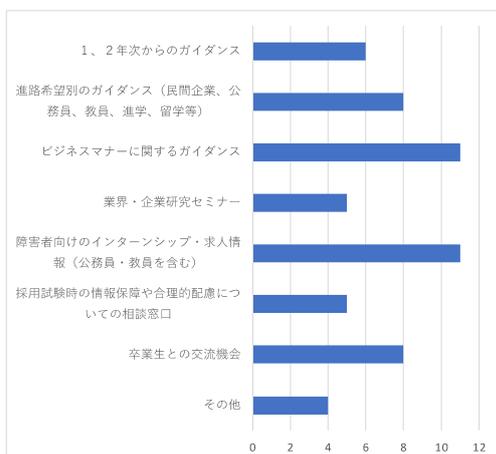
青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

18. 進路が決定するまでの大学のサポート体制について

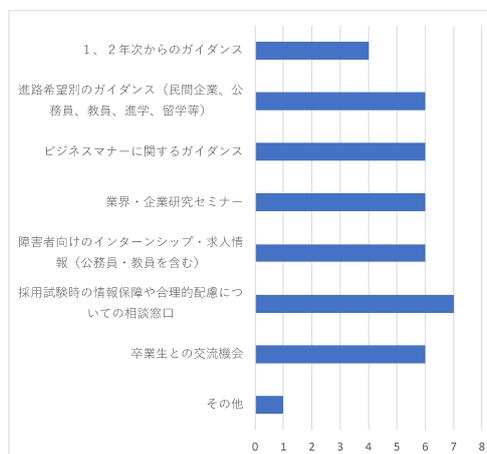


19-1. 既に大学で行っているキャリア支援の他にどのような支援があると良いと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

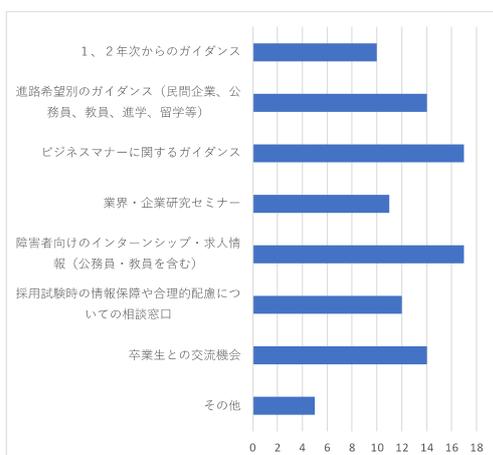
産業技術学部



保健科学部



学部全体

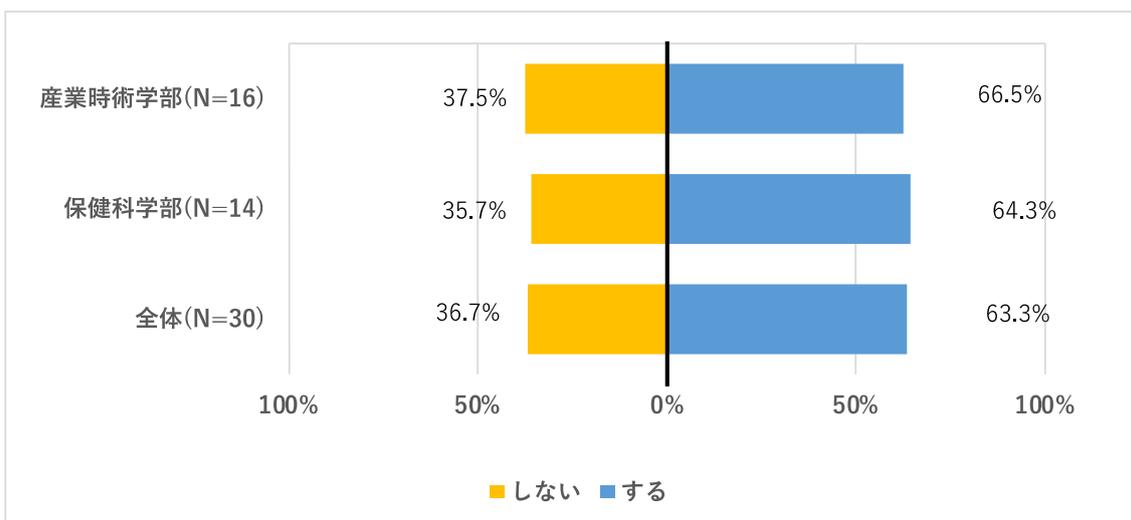


19-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

- ・聴覚障害者のためのサイト（グラなんとか）の紹介をしてあげて欲しいです。
- ・1年生からもっと真剣に考える時間が欲しかった。自己分析のやり方が特にわからず、3年の就労だけでは物足らなかった。
- ・会社によっては必須となる保険加入や企業型確定拠出年金などの指導。健常者と違って、障害年金や障害者向けの保障を得ている人にとっては「国からの保障内容と会社から紹介された保険内容が重複してるけど、入らないといけないのかな?」「障害年金があるから、リスクが怖いから拠出年金にあまりお金を出したくないな」などの分からないこともあるため、そういった悩み解決できる機会が必要かなと思った。

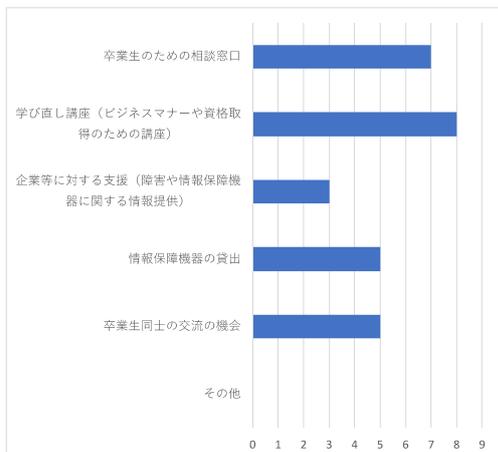
- ・SPI や小論文の対策
- ・1、2年次からのインターンシップ促進
- ・大手のみではなく、中小企業の求人情報やガイダンス等あるとなお良い。

20. 卒業後に大学による支援を希望しますか。

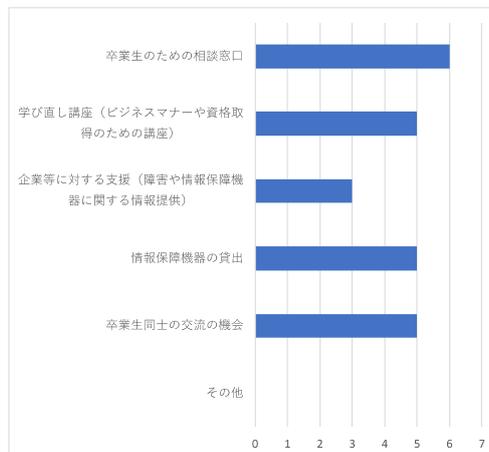


21-1. 卒業後に希望する支援について、当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

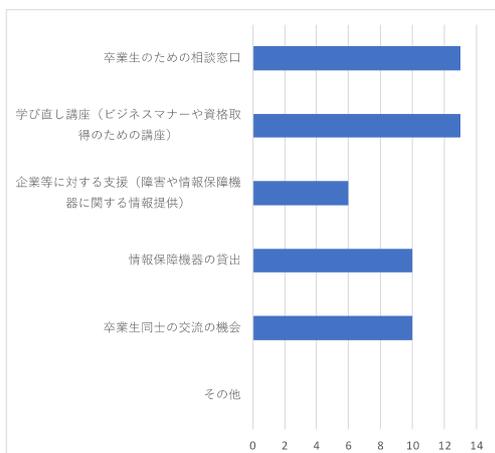
産業技術学部



保健科学部



学部全体



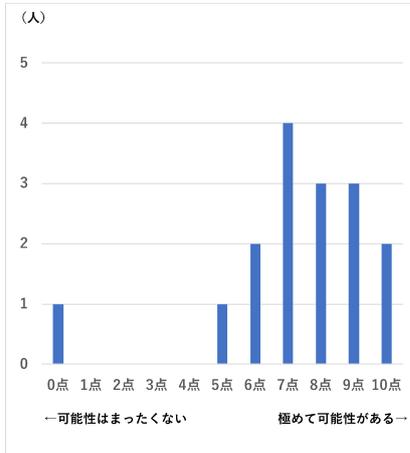
21-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

回答なし

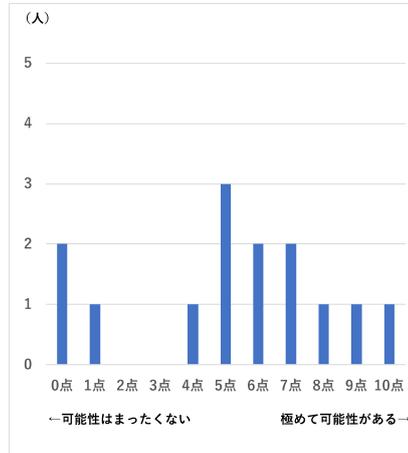
◆ 最後に

2 2. 筑波技術大学を友人や知人に勧める可能性はどの程度ありますか？

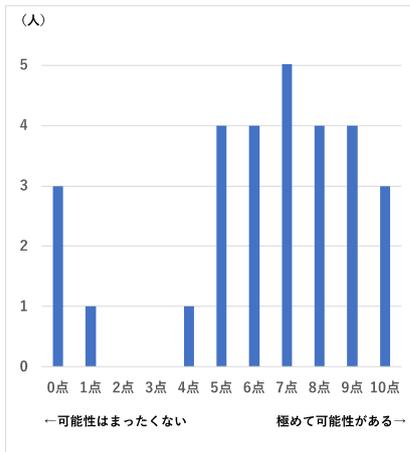
産業技術学部



保健科学部



学部全体



2 3. 筑波技術大学の教育や研究、その他の活動について、ご意見があればご記入ください。

・"ギャラリートーク、賞をあげるための時間ならば完全に不毛な時間といえます。先に申し上げますが、賞を貰った生徒は妥当な評価だと思っていますし素晴らしいと考えています。賞が貰えなかったことが不満なわけではありません。卒業研究はみんなそれぞれ内容が違ってそこが醍醐味で善し悪しなどで比較するようなことではないのになぜ比較されなきゃいけないのが疑問です。その「賞」のせいで公平な評価するはずの先生が「障害者支援」ではなく「デザイン」のみで評価していることが非常にショックでした。私たちは賞を頂くために卒業研究していたのではありません。人のために研究を必死に行っていました。それをたかが「賞」でその人の頑張りや気持ちを否定しない

で欲しいです。最終発表会で既に発表しているので、ギャラリートークはいらないんじゃないかと思います。どちらか1つに絞り、評価の仕方を見直せばよろしいかと思います。賞はホントにしなくていいです。変だと思います。ギャラリートークの評価方法を今すぐに見直して欲しいです。"

- ・少しでも早く食堂が再開してほしいです。また、以前置いてあったパンやお菓子の自動販売機も復活してほしいです。学園祭も来年度からは再開し、大学に活気が出ることを期待します。
- ・フィードバック期間が存在しているが、あまり活用されていない。
- ・英と数(情報のみ)の入学時のレベル差が学生によって著しく、それは埋めるのは時間的にもばらつきのにも不可能な状況にある。現在は補修や授業の低速化によって下のレベルの生徒に合わせているが、その方法は大学という高等教育機関では不要であると思う。上のレベル、意欲のある生徒の時間や学習機会の損失が無いような、レベル毎のクラス分けや個別指導が必要だと考える。例えば3,4年生をアシスタントティーチャーという形でバイト起用すれば、教員不足がある程度解消されより個別に生徒を見ることができ、またアシスタントティーチャー役の生徒はアウトプットによるさらなる学習効果の向上も狙える。視覚障害者ということでバイトも受かりにくいという点も少なからず解消される。(アシスタントティーチャーの選定及び監督という業務は増えてしまうが…)
- ・講義や発表の時にほとんどの先生が声を出しての手話をしてるため、声なし手話をしにくい環境にあると思ったため、先生からも声あり声なし手話、どちらでも自由にしていいよと声掛けてもらおうと嬉しいと思います。
- ・"普通に頭が悪すぎる学生が沢山います。せめてまともに人と会話できるようにしないと一般人から引かれます。コロナ禍により、下の代は余計にコミュ力がありません"
- ・"春日キャンパスとの交流をもっと行いたい。聴覚障害飲みならず視覚障害についても学べる良い環境の筈だが、思ったより交流が少なかった印象。プール施設があるにもかかわらず、プールを利用出来ないこと。"

青字：産業技術学部 緑字：保健科学部

国立大学法人筑波技術大学 令和4年度修了時アンケート報告書

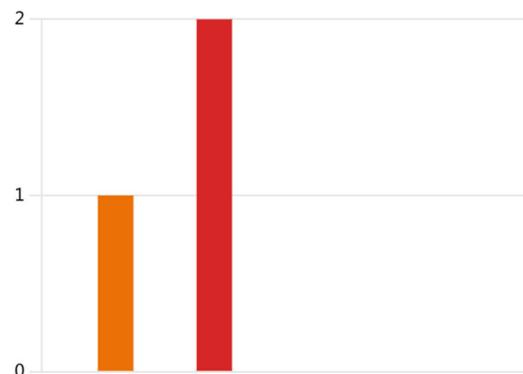
実施年月：令和5年3月13日（月）～3月31日（金）

実施方法：Webアンケート

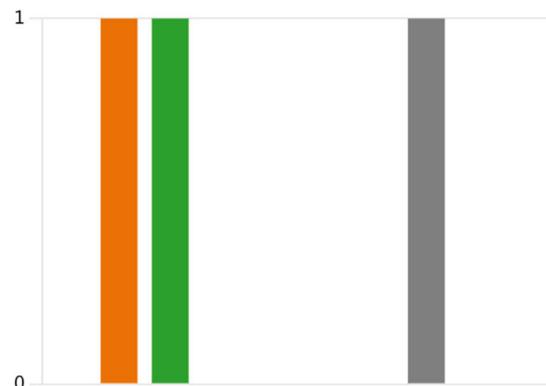
調査対象：修了生7名（回答者3名、回答率42.9%）

◆ 志望動機について

1—1. 筑波技術大学大学院を志望した理由として、最もあてはまる項目を1つ選んでください。



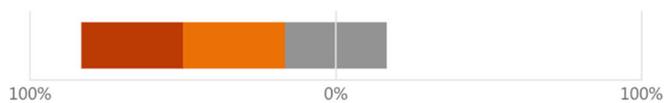
2—1. 筑波技術大学大学院を志望した理由として、2番目にあてはまる項目を1つ選んでください。



◆ 大学への印象

3. 入学前と比較して「筑波技術大学院は良い大学院だ」という思いは強まりましたか。

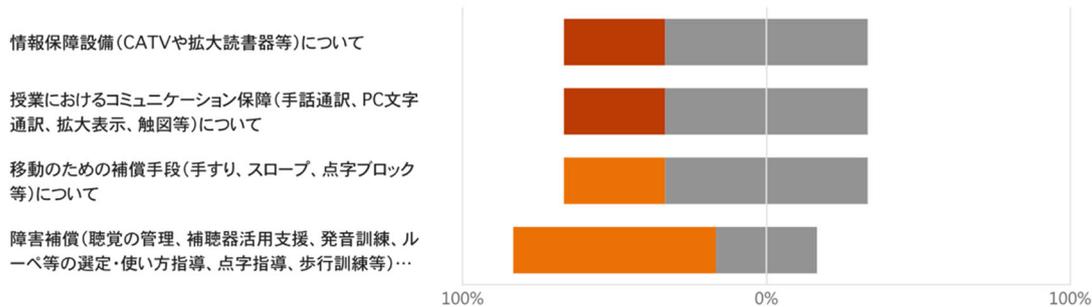
■ そう思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



◆ 学修・研究を促す環境

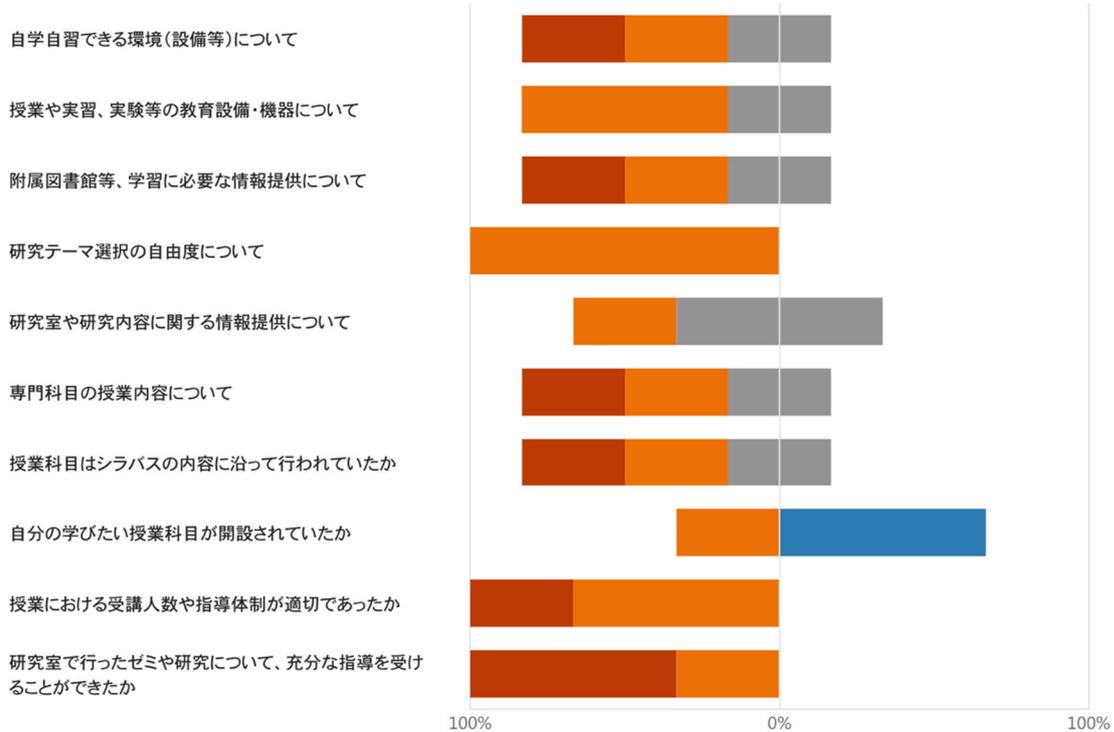
4. 障害に対する配慮について、以下の設問にお答えください。

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満



5. 学修・研究環境について、以下の設問にお答えください。

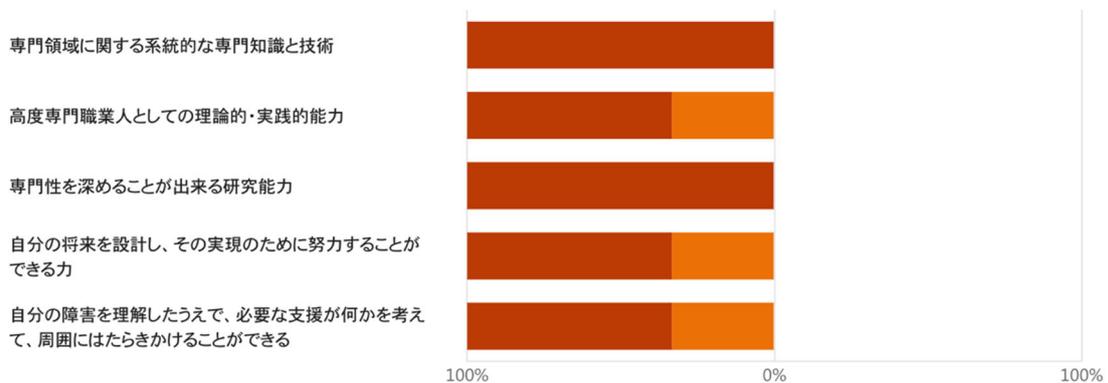
■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満



◆ ディプロマポリシー等の達成状況

6. 大学院の教育によって、入学時と比べて以下の能力がどの程度身に付いたと思いますか。

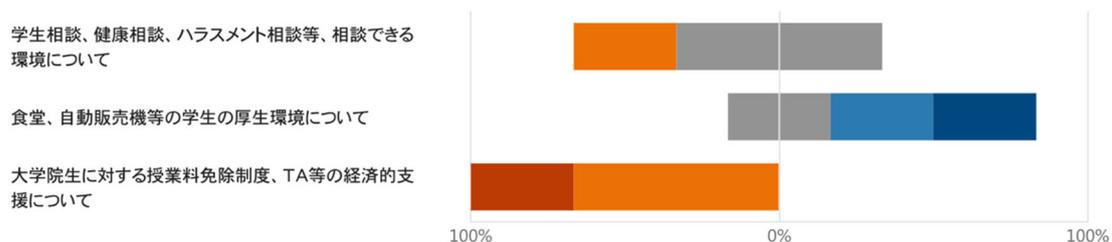
■ 身に付いた ■ やや身に付いた ■ どちらともいえない ■ あまり身に付かなかった ■ 身に付かなかった



◆ 学修・研究以外の環境

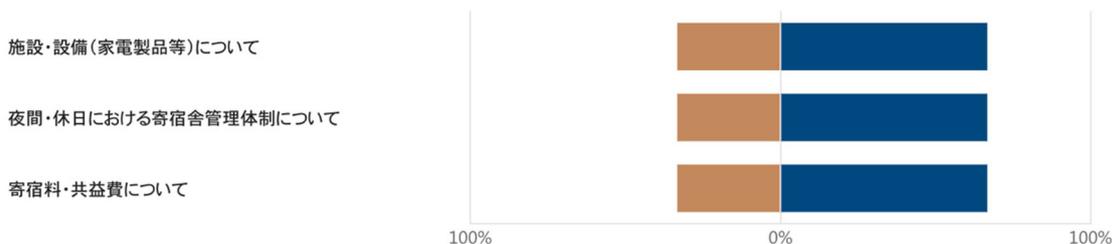
7. 学生生活支援について、以下の設問にお答えください。

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満



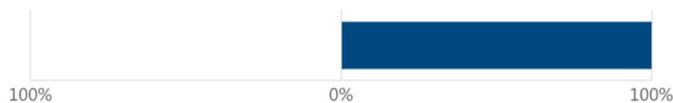
8. 学生寄宿舎について、以下の設問にお答えください。

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 寄宿舎に入居していなかった



9. 大学によるサークルに対する支援について

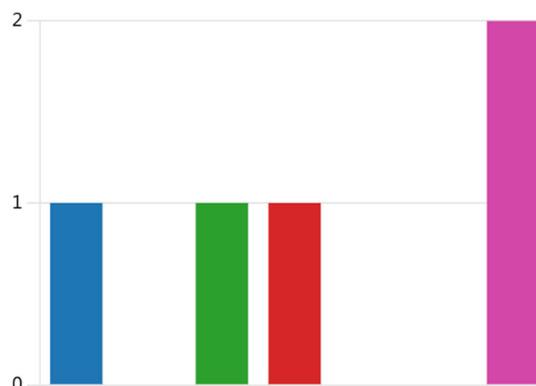
■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ サークルに加入していなかった



◆ キャリア支援

10-1. 大学で行っているキャリア支援のうち、利用したことがあるものを全て選んでください。(複数回答)

● 就職担当の教員による支援(相…	1
● 就職支援員による支援(相談、エ…	0
● 就職ガイダンス	1
● 学内企業説明会	1
● インターンシップへの参加(大学…	0
● 就職資料室の求人票、会社資料…	0
● 利用していない	2

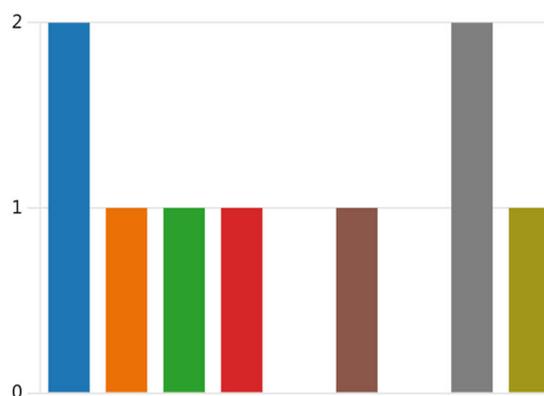


10-2. 上記の設問で「利用していない」を選択した方は、その理由を教えてください。

- ・ 復職の予定のため
- ・ 上記支援を認識していなかった。

11-1. 進路を決定する際に役立つものについて、当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

● 大学院で学んだ内容	2
● 教員による支援(相談、エントリー…	1
● 学内の就職ガイダンス・説明会へ…	1
● 学外のセミナー・説明会への参加	1
● インターンシップへの参加(大学…	0
● インターンシップへの参加(大学…	1
● 就職資料室の求人票、会社資料…	0
● 家族・友人・先輩による助言	2
● その他	1

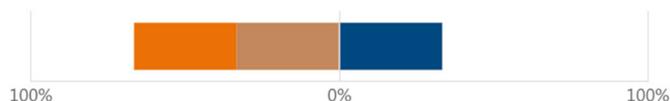


11-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

回答なし

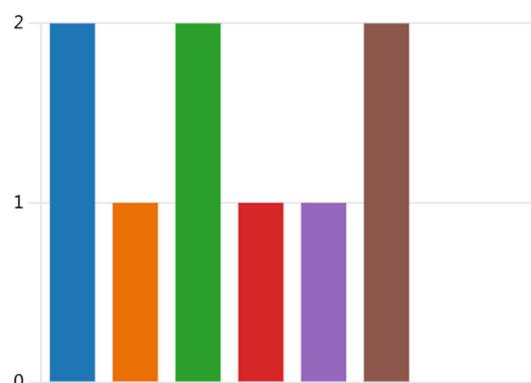
1 2. 進路が決定するまでの大学のサポート体制について

■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 就職活動を行わなかった



1 3-1. 既に大学で行っているキャリア支援の他にどのような支援があると良いと思いますか。当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)

- 進路希望別のガイダンス(民間… 2
- ビジネスマナーに関するガイダンス 1
- 業界・企業研究セミナー 2
- 障害のない学生を対象としたガイ… 1
- 障害者向けのインターンシップ… 1
- 採用試験時の情報保障や合理的… 2
- 修了生との交流機会 0
- その他 0

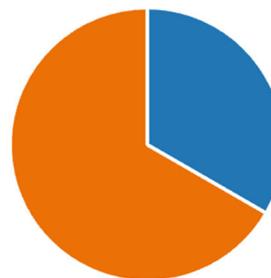


1 3-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

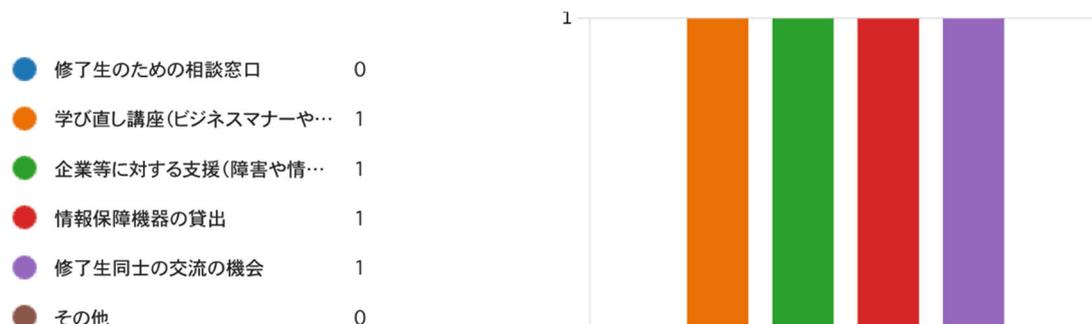
回答なし

1 4. 終了後に大学による支援を希望しますか。

- する 1
- しない 2



15-1. 終了後に希望する支援について、当てはまるものを全て選んでください。(複数回答)



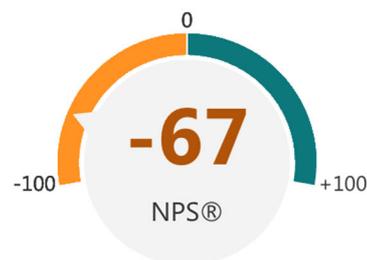
15-2. 上記の設問で「その他」を選択した方は、具体的にご記入ください。

回答なし

◆ 最後に

16. 筑波技術大学大学院を友人や知人に勧める可能性はどの程度ありますか?

推奨者	0
消極的	1
反対	2



17. 筑波技術大学大学院の教育や研究、その他の活動について、ご意見があればご記入ください。

・もう少し実験に使える機器が欲しいです。
・修了後の研究活動に関する指導と支援をしてほしい。